



MAFF
内定者ガイドブック
令和5年度 総合職事務系

#Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries



はじめに

農林水産省の「内定者ガイドブック」を手にとっていただきありがとうございます。

本冊子は、国家公務員に関心を持つ方に、農林水産省の魅力や国家公務員の採用プロセスについて知っていただくために、令和5年度内定者が作成したものです。

国内外の情勢変化を受けて、農林水産省の政策も大きなターニングポイントを迎えているといわれます。専門性や地域・国境を越えて、これまで以上に幅広い活躍の場が広がっています。

本冊子には、官庁訪問を乗り越えた私たちの今の想いを余すことなく盛り込みました。人生の岐路に立つ皆さんへの道標になることを願っています。

令和5年度 農林水産省総合職事務系 内定者一同

※本冊子は内定者が作成したものであり、その記載の内容は農林水産省の見解を表すものではありません。

VISION STATEMENT

わたしたち農林水産省は、
^{いのち}生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受け止め
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

GRAND MENU

- 1 試験対策 ・ ・ ・ ・ ・ p.4
- 2 官庁訪問対策 ・ ・ ・ ・ p.34
- 3 民間就活について ・ ・ p.48
- 4 地方出身者の声 ・ ・ ・ p.51
- 5 内定者紹介 ・ ・ ・ ・ p.58

基本情報 ・ ・ ・ ・ ・ p.6

全区分共通の科目 ・ ・ p.7

教養区分 ・ ・ ・ ・ ・ p.12

春試験共通の事項 ・ ・ p.19

法律区分 ・ ・ ・ ・ ・ p.22

政治 ・ 国際区分 ・ ・ ・ p.26

経済区分 ・ ・ ・ ・ ・ p.29

院卒区分 ・ ・ ・ ・ ・ p.32

1 試験対策



2024年度試験から、試験内容が変更となることが決まっています。
主な変更点は以下の3点です。

- 1 人文系の専攻者が自らの専門分野を選択できる区分が創設
- 2 春の大卒程度試験において、基礎能力試験の出題数削除などの試験問題の見直し
- 3 春の総合職試験の日程が前倒しされ、第1次試験は3月中に実施

詳細は、人事院HPの[試験日程に関するお知らせ](#) | [国家公務員試験採用情報NAVI](#)をご覧ください。

試験制度の変更に伴い、以下の点に注意が必要となるでしょう。

- 💡 勉強のスケジュールの見直し
- 💡 勉強内容の見直し
- 💡 希望省庁のイベントと勉強の両立

内定者ブックをご覧になっている皆様は、はじめに

☆人事院の採用情報HP ([人事院国家公務員試験採用情報NAVI](#))

☆志望官庁の公式HP ([農林水産省総合職\(事務系区分\)採用案内](#))

を確認するとともに、気になる点があれば問い合わせなどをして明確にしておくと思います。

本内定者ブックは、2023年度までの試験制度下で受験した内定者の試験対策における生の声を反映した内容です。

2024年度からの変更点については、2023年8月時点の公表資料により補足してはいますが、改めて確認することを強くおすすめします。

制度は変わりますが、総合職事務系の志望者に求められる能力や思いが大きく変わることはないでしょう。私たちの声が少しでも皆様の方になれることを願っています。

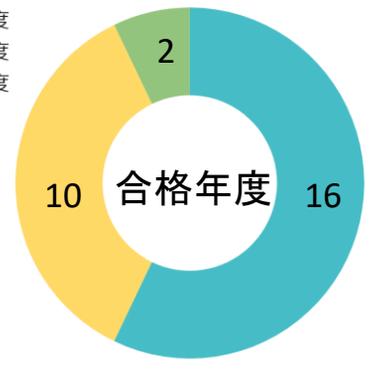


内定者の試験に関する基本情報を紹介します。

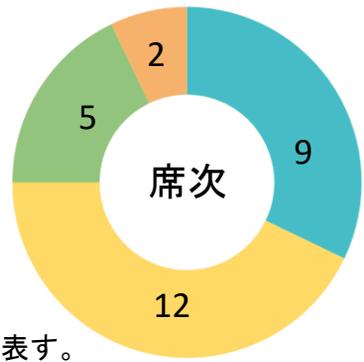
- 大卒 教養
- 大卒 法律
- 大卒 経済
- 大卒 政治国際
- 院卒 行政



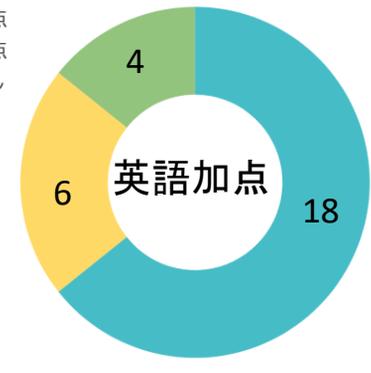
- 2023年度
- 2022年度
- 2021年度



- 0%～25%
- 25%～50%
- 50%～75%
- 75%～100%

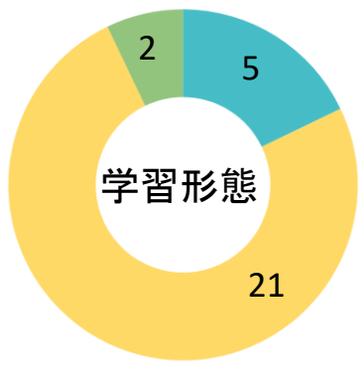


- 25点
- 15点
- なし



※上位n%を表す。

- 独学
- 予備校
- その他



【Points!】

- 💡 試験区分に関係なく、採用が行われます。
- 💡 席次が気になる人も多いかもしれませんが、農林水産省では席次にかかわらず、人物本位の採用が行われていると感じました。
- 💡 英語加点を利用したり予備校を利用したりと内定者の中にも多様な試験への臨み方があります。



共通（知能分野・知識分野）

はじめに、全試験区分に共通する知能分野・知識分野と人物試験（p.9）の対策方法について内定者の声をまとめました。

【総論】

- ・人によって得意・不得意が大きく異なるため、早いうちに自分の得意・不得意を見極めて時間配分に注意する。
- ・時事以外あまり対策をしなかった。
- ・問題集が解けるようになってきてから過去問に取り組んだ。
- ・直前期は慣れるために時間を計って解いた。
- ・問題集を変えずに、ひたすら問題パターンに慣れることが大事。
- ・模試を受験することは、本番と同じ状況下で自分がどのくらいタイムマネジメントできるかを試せるため、非常に役立った。
→本番の試験も「こんなもんか」という気持ちで挑めた。
- ・YouTubeやInstagramに解法テクニック動画があり、案外役に立った。

【数的処理・数的推理】

- ・まず予備校の講義動画を一通り視聴し、その後は問題集を継続して繰り返し解いた。
- ・解けるものと解けないものをハッキリさせ、解けるものだけを確実に解いた。
→当日の解答時間を考えると、全てに手を付けても全て解ききることは不可能！
- ・民間のWEBテスト（SPI、玉手箱、TG-WEBなど）を練習代わりにした。
- ・ただ解きまくるだけでなく、問題の解答方法をしっかり理解することが大事。
- ・逃げないように、友達と一緒に取り組む日を決めた。
- ・国総の問題は一捻り加えられていることが多いため、問題集だけでなく、過去問にも早めに触れるべき。



共通（知能分野・知識分野）

【文章理解・資料解釈】

- ・和文は読めば何とかなるが、英語は訓練が必要。英語の加点にもつながるため、早めにTOEIC等の対策に取り組んだ。
- ・一度解いてみて解けるのであれば、対策は必要ない。
- ・数的が苦手な人にとって、この分野が得点源になる。感覚が鈍らないように1日数問だけでも解いておくとよい。
(私は、ぎりぎりまで放置していたため、感覚が鈍っていて焦った。)

【一般知識】

- ・大学受験で取り組んだ科目だけは過去問で触れ、それ以外は特に取り組まなかった。
- ・範囲が広すぎるため、変に手を広げすぎないことも大事。
- ・高校の教科書・参考書を読んだ。

【時事】

- ・日経新聞がおすすめ。
→出費が辛かったため、楽天証券口座を開設すると特典で使える日経テレコンを利用していた。
→所属大学の図書館で利用できる場合もある。
- ・日頃からニュースを見るようにする。
- ・論文や討議のネタにもなるため、習慣的に新聞を読んでいた。その際、記事だけでなく、社説や読者の声にも目を通し、自分自身の意見を明確にした。

【Points!】

この分野では「勘」や「感覚」を掴むという話が共通して出てきました。

筆者も最初は「こんなの解けない」と思っていたうちの1人。しかし、問題集を2周した頃から「感覚」を掴みました。自分を信じて頑張りましょう！



共通（人物試験）

【人物試験】

ここでは、全区分に共通する人物試験について内定者の声をまとめました。春試験の場合、人によっては2次の筆記試験が終わってすぐの日程で面接をすることになるので切り替えと事前の対策が重要です。

面接カードには、学業（前職における経験）、課外活動、その他の活動、国家公務員を志望した理由などを書きます(2023年度採用試験の場合)。

ガクチカについて

※ガクチカ・・・学(ガク)生時代に力(チカ)をいれたこと

・ボランティア経験やインターン経験、サークル、日々の生活、アルバイトなど、たくさん選択肢がありますが、もし足りないと思う場合は、今からでも間に合うので、情報収集して積極的に動いてみてください。

・ガクチカがなかったからつらかった。10月くらいから、子供食堂ボランティアに参加して、課題解決したことにした。回数や継続した期間だけでなく、そこで何をやったかが重要。自主的に動けばいくらでもガクチカが創り出せる。

・面接の定石ですが、「こういう経験をして、こういう力がつきました」もしくは「こういう強みがあります、それを裏打ちする経験はこれです」を言語化でき、それを採用後にどう活かせるか、の説明ができればOKです。

・頑張っていること、続けていることは何かしらあるはずなので、自分のこれまでの人生を振り返ってみるのもいいかもしれません。他の人と話してみると、自分では頑張っていると思っていた（ほどに熱中していた）ことも、人から見ればすごいことだった、なんてこともあるので、周りの人にアウトプットするのもいいでしょう。

・官庁訪問対策として自分自身が何をしたいのか、どのような日本を実現したいのかを考えておけば、人事院面接は簡単に乗り切れます。

・面接カードを講師や友人、親に見てもらい、会話を通して自分を見つめなおし、ブラッシュアップしていった。



共通（人物試験）

面接カード・面接練習について

- ・ 2次の筆記までに志望動機をある程度完成させ、筆記試験後に志望動機を友人に添削してもらいブラッシュアップしたうえで、友人同士でほぼ毎日面接練習を行いました。
- ・ 先輩に面接カードを添削してもらい、その上で聞かれそうな点を指摘してもらった。
- ・ 面接は場慣れが重要です。ジョブカフェや新卒ハローワークで練習や面接カードのブラッシュアップをしてもらうのがおすすめです。
- ・ 在学中の公共政策大学院にて実務家教員の先生方より、公務員への志望動機を中心にご指導いただきました。聞かれたことに対して結論ファーストで簡潔に答えることや、身振り手振りも適度に交えて話していました。
- ・ 学内に国家公務員志望者の団体があったので、そこで内定者の先輩に面接練習をしてもらいました。
- ・ 人事院面接は、官庁訪問と比べて形式的な問答みたいな感じがあるので、回答をしっかりとめに暗記していきました。
- ・ 話すとき文を区切るよう意識した。
- ・ 12月頃から学内公務員講座の面接練習に7~8回参加した。人によって何を聞いてくるかが異なるのでできるだけ違う人に面接官役をお願いし、想定問答のバリエーションを増やした。
- ・ 友達と対面だと笑ってしまうので、ぬいぐるみ×友達の天の声、おすすめです。



共通（人物試験）

面接カード・面接練習について(続き)

- ・面接シートは講座担当の職員さんに、①日本語・文章構成、②「問答において詰めてほしい箇所」が拾ってもらえるような表現になっているか、など確認してもらいました。
- ・予備校で模擬面接を2回ほどしてもらい、自分の言葉遣いの癖や詰められそうな箇所の確認をしていました。
- ・民間就活を経験していたので、人事院面接の対策は特にしませんでした。

本番問われたこと・雰囲気について

- ・対立したり揉めたりしたエピソードを繰り返し求められました。
- ・面接カードに書いたことを深堀されました。
→具体的なエピソードとそのときに感じたことを多く聞かれたように思います。
- ・組織でどのような働きをしているかを聞かれました。
- ・面接官は3人で、各項目ごとに1人の面接官が担当していました。
- ・こちらを見てうなずいて話を聞いてくれたため、話しやすかった。

【Points!】

面接対策として、多くの人と話すことが大切です。

話すことで自分自身がどういう性格なのか、何をしたいのかが明確化されてきます。

頭の中ではストーリーを描けているように感じてても、人と話すと、実はきちんと説明できなかつたり、論理の飛躍があつたりします。



教養区分編（構成）

【内容】

※  が付いている試験の対策については、後ろのページをご覧ください。

○1次試験

総合論文試験	<p>I 部：政策の企画立案の基礎となる教養・哲学的な考え方に関するもの</p> <p>II 部：具体的な政策課題に関するもの</p> <p>資料を読み込むための時間も含めると、4時間の試験時間は、意外とあっという間かも。  (☞p.15)</p>
基礎能力試験	<p>I 部：知能分野（文章理解、判断・数的推理）</p> <p>II 部：知識分野（自然科学、人文科学、社会科学、時事）</p> <p>特にI部は全集中で臨むべし！論文後は心身ともに疲れていると思うので、チョコなど甘いものを持っていくのもおすすめ。</p>

○2次試験

企画提案試験	<p>I 部：政策概要説明紙（プレゼンテーションシート）作成</p> <p>II 部：プレゼンテーション（5分）及び質疑応答（20分）</p> <p> 特にII部、事前に予想できていなかった質問に対しても、焦らずに答えよう！As cool as cucumber (☞p.17)</p>
政策課題討議試験	<p>いわゆる「グループディスカッション」</p> <p>常に、議論の大枠の流れをきちんと捉えておこう！話が逸れてしまったときは軌道修正すると良いよ。  (☞p.18)</p>
人物試験	<p>全区分共通の人事院面接</p> <p>約15分、自分をアピールする時間！ 落ち着いて、はきはきと答えよう！</p>

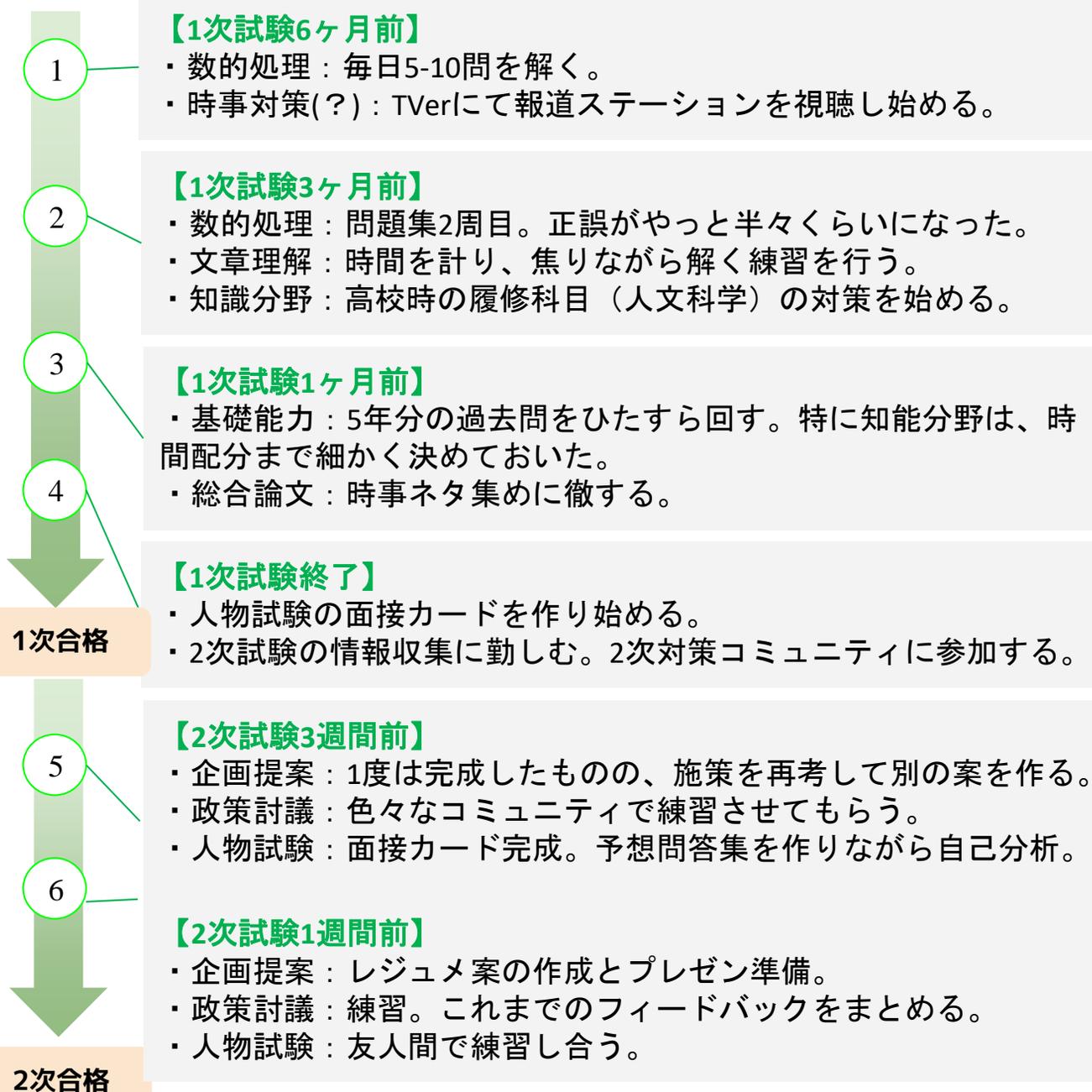


教養区分編（スケジュール）

【勉強スケジュール】

教養区分最終合格までの軌跡を、2人の内定者が振り返ってみました。

Aさんの場合





教養区分編（スケジュール）

Bさんの場合

1

【1次試験1年前】

- ・ 数的処理：週に10問くらいのペースで問題を解く。
- ・ 時事対策：新聞を購読して最近のニュースを把握する。

2

【1次試験半年前】

- ・ 数的処理：問題集の2周目に入る。
- ・ 知識分野：大学の授業の復習も兼ねて憲法や経済学の勉強をする。

3

【1次試験3ヶ月前】

- ・ 知識分野：人文科学のインプットをする。
- ・ 知能分野：文章理解の対策としてTOEICの勉強と受験をする。
- ・ 総合論文：重要/最近の政策分野について勉強してまとめる。

4

【1次試験1ヶ月前】

- ・ 知能分野：時間を計って過去問をあるだけ解く。
- ・ 知識分野：高校時代に勉強した理系科目を復習する。
- ・ 総合論文：過去問を解いて友人と添削し合う。

5

【1次試験終了】

- ・ 人物試験：面接カードの準備を始める。

1次合格

6

【1次試験合格発表後～】

- ・ 企画提案：関連する資料を集めて読み込みを始める。
- ・ 政策討議：予備校や大学の対策会の場などで数回練習する。
- ・ 人物試験：友人や予備校で面接カードを添削してもらい作り直す。

7

【2次試験2週間前】

- ・ 企画提案：大学の対策会で施策案をブラッシュアップ。
- ・ 人物試験：想定問答集を作り、面接の練習をする。

2次合格

教養区分編（総合論文試験）

1次試験

【総合論文試験】

- 参考書を読んで、ある程度、公務員としての考え方を学んでおいた。



どんな参考書を使ったの？

実務教育出版『論文面接で問われる行政課題・政策論のポイント』って本だよ。

- 自分の書いた論文を、友人や予備校の講師に添削をしてもらった。

第三者に自分の文章を添削してもらうことで、新たな発見があるかもね～。

- 論文構成や時間配分は、試験前にあらかじめ決めておいた。

本番のイメトレが大事なんや！

- 環境問題やウクライナ紛争など、基本的な時事テーマは自分の意見を持っておいた。

II部の課題によっては、かなり活かせるかも！？

- 予備校のゼミで、対策＋指定された資料の読み込みを行った。

それはどんな資料だったんだい？

各省庁の白書や、ここ数年に出た政策の基本計画が中心だったよ。食料安保、地方創生、イノベーションといったトピックについて勉強したよ。



【Points!】

同日実施の基礎能力試験と比べると、こちらの対策については、あまり多くの時間を費やしていない印象です。最低限の事前準備として、論文構成の再確認や、時事テーマの振り返りを行うとよいでしょう。



教養区分編（2次試験）



2次試験

ポイントは、【①積極的な情報収集、②実践練習の経験】です。

友人や先輩、内定者懇談会での内定者などに聞き、対策やコツに関する情報をより多く集めることが重要です。1人では難しい対策については、受験仲間を見つけて一緒に練習するのがおすすめです。

【具体例としては...】

①積極的な情報収集

- ・ 前年度合格の先輩から
- ・ xKASUMIのサイト
- ・ 農水省の内定者懇談会
- ・ 省庁による2次対策会
- ・ 予備校の活用



教養区分受験者が身近に
なくても、インターネット
の活用や省庁イベントに参
加することで、有益な情報
を集めることができたよ。




色々な対策方法あるけれど、
多くの合格者がやっていた
共通点を見つけるとよいか
も！

②実践練習の経験

- ・ 説明会で知り合った受験生と
- ・ 同大学の教養区分対策をしているメンバーと
- ・ 民間就活のGD（政策課題討議）
- ・ xKASUMIのイベント
- ・ 京僚会のイベント
- ・ 予備校の活用



2次試験までの少ない時間を
有効活用するために、
ZOOMなどを使ってオンラ
イン上で対策する人たちも
何人かいたっぽい。



教養区分編（企画提案試験）

【企画提案試験】

「企画提案対策って、どこから手をつけたら良いの...？」という人に向けて、対策ステップの一例を考えました。

ステップ

1

出題テーマに関する理想状態・現状・原因を理解する



人事院から参考資料として指定される白書を参考に、まとめてみてね。

テーマに関連する情報について、論説や報道から集めた人もいます！



ステップ

2

テーマから推測される想定問題と対応する施策の案をいくつか考える



想定問題も、いくつか考えておくと安心！

【施策で固めるべきこと】

- ①なぜその施策か（なぜその対象か）
- ②どのように行うか
- ③どんな効果が見込まれるか



ステップ

3

レイアウトの作成やプレゼンテーションの練習など、模擬練習を行う



試験経験のある内定者に添削してもらい、良いアドバイスがもらえたという人も！

受験者同士で施策に関する質問をし合い、互いにブラッシュアップするのもおすすめ。

【質疑応答で意識すること】

- ①結論ファーストで簡潔に
- ②想定外の質問が飛んできて、真っ向から否定せずに自分の意見を伝える





教養区分編（政策課題討議試験）

【政策課題討議試験】

「グループディスカッションって運ゲーじゃないの...?」と
思っている方に伝えたい。筆者は、対策可能な試験だと考えています！

そこで、【①1人でできる対策、②心がけたいポイント】についてま
とめてみました。

①1人でできる対策

- ・ 日頃から時事問題に関心を向け、意見を持つ
- ・ あらかじめ、大まかなレジュメ構成を考えておく

レジュメに入れる項目とは、例えば、

「結論」「理想状態（or目的）」
「現状」「理由」「懸念」「話した
い論点」などなど。



一緒に議論する人たちみんなに見
てもらえることになるので、視覚的
な分かりやすさも意識しよう。

②心がけたいポイント

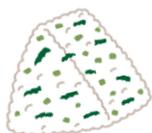
- ・ 合意点を探り、議論の中で何を目指しているのかを明確にする

議論の方向性を示すために、
最初、みんなで理想状態を共
有してみたよ。

議論の各フェーズで小括
をすると、みんなの理解
が一致して議論が捗るか
も！



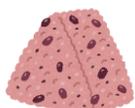
- ・ 相手の意見に対して、真っ向から否定しない



協調性大事！異なる意見に対しても、部分
的に理解できるところはしっかり伝えよう。

- ・ どんな場合・役割であっても、自分の意見を言う

特に、司会の人には注意！
それぞれが積極的に話す
ことで、グループの議論
に貢献しよう。



昨年度、グループ全員が同じ
立場（肯定・否定）を選んだ
ケースがあったみたい。
そんな場合も慌てずに、自分
の考えを発言してみよう！



春試験（法律/政治・国際/経済区分）

【内容】

春試験（大卒程度）は全区分とも以下の構成となっています。その中で、「専門試験」の出題内容が各区分で異なります。その他の部分は全区分共通です。

○1次試験

- ・基礎能力試験（2/15）
- ・専門試験（多肢選択式）（3/15）

○2次試験

- ・専門試験（記述式）（5/15）
- ・政策論文試験（2/15）
- ・人物試験（3/15） ※括弧内の数値は配点



【Points!】

多くの場合、自らの専門に近い区分を選択することになるでしょう。大学で学んできたことが試験対策にも活かたという声も聞かれます。他方で、細かな知識の暗記や論述の書き方など試験対策だからこその学習は必要です。

春試験では、1次試験のために対策しなければならない科目が非常に多い他、2次試験の論述対策をしなければならない科目が複数あります。学習の開始時期や期間中の時間配分が重要です。

学習の開始時期については、どの区分も概ね半年前から学習を開始した人が多いですが、必ずしも満足のいく対策ができたわけではなかったという声も多く、早めの対策開始が重要です。

時間配分については、筆記試験の科目間のバランスはもちろん、人物試験や官庁訪問の対策を疎かにしないことも重要との声が聞かれました。また、学業や部活、民間就活などとの両立の難しさを感じたという声も聞かれます。もっとも、そうした中でも内定者は実際に内定を勝ち取っているので過度の心配は不要でしょう！



春試験（スケジュール）

【勉強スケジュール】

春試験対策のスケジュールの一例を紹介します。各段階少しずつ早めに進めていくことで、直前期に余裕を持ってバランスのよい対策ができるでしょう。

Cさんの場合

1

【1次試験6ヶ月前】（大学の秋学期）

- ・予備校の講義動画を視聴し始める（まずは憲法から）。同時にその範囲の1次試験対策の問題演習を進める。

2

【1次試験3ヶ月前】（年明け）

- ・この頃までには、憲法・行政法・民法は講義動画の視聴と問題演習を1周は終えた。→選択科目の対策開始。
- ・予備校の専門記述対策の講義動画を視聴。専門記述を初めて書いた。
- ・基礎能力試験対策も本格的に始める（1日数問解くと決めて）。
- ・説明会などに参加して考えをまとめつつ、面接カードや身上書の内容を考える。

3

4

【1次試験1ヶ月前】

- ・ひたすら過去問演習や答練の復習（正直他のことはできなかった）。

1次合格

5

【1次試験終了】

- ・専門記述のための知識のインプットや実際に書く練習。
→大事そうな論点をまとめる。
- ・政策論文については、論文対策の本を読む他は、たまに書いてみる程度。

6

【2次試験2週間前】

- ・憲法・民法・行政法ともに主要な論点を見直しつつ、応用的な論点や新しい論点にも目を通した。

2次合格

【筆記試験後】

- ・面接カード完成。想定問答集を作成しつつ模擬面接など。
- ・説明会に参加しつつ身上書の内容も練る。



春試験（政策論文）

【政策論文】

このページでは、春試験の全区分共通で求められる政策論文試験の対策方法についてまとめました。政策論文試験は、一般知識や時事の知識を基礎にして自らの考えを述べることである程度対応可能なため、中には「何も対策をしていない」という人もいましたが、適度な対策をしておくことでより安心でしょう。



「科学技術と専門官、行政に求められる役割」をグーグルで調べることや、よく過去問で出てくる単語・文を、Ciniiで調べて論文を読んでいた。問題を作成している人はどこかの大学の教授なので、Ciniiで調べておくと参考になる。」



「政策論文のテキストを購入し、論文の構成の方法などを学んだ。」



「専門記述試験の公共政策Aの『資料やグラフ』が『日本語や英語の文章』になったバージョンです。解き方は公共政策Aと大体同じです。」



「予備校の講義を視聴し、得点アップにつながる書き方のコツを直前に確認した。自主演習は1回しかしていない。」



「公共政策、政策論文では、全ての資料に触れることを意識した。」



「過去の合格者の解答を見て、構成を把握した。」



「実際に自分で答案を作成したことがなかったので、本番では時間配分を誤った。1度は書いてみた方がよいかもかもしれない。」



「問で聞かれていること全てについて記述できたわけではなかったが、ある程度の点数は取れたので、心配する必要はない。」



「1週間くらい前から実際に自分で解答を作成してみて、数日前から時間を計るようにしていた。添削をしてもらう手段を見つけることができなかったが、予備校の解答再現集を読んで、1つの問題に対する様々な切り口の解答例を見比べながら、高評価の人の特徴を自分なりに考えていた。」



法律区分編（構成）

【全体として】

- ・ 法律区分は内定者28人中7人。
- ・ 学習形態としては、予備校利用が6人、独学が1人です。
- ・ 大学の所属は、法学部が5人、非法学部が2人です。
- ・ 席次については、上位0%~50%の間に分布しています。

【内容】（2023年度まで）

○1次試験

- ・ 基礎能力試験

知能分野27題

知識分野13題

- ・ 専門試験（多肢選択式）

必須問題：憲法7題、行政法12題、民法12の計31題解答

選択問題：商法3題、刑法3題、労働法3題、国際法3題、経済学・財政学6題の18題から任意の計9題解答



○2次試験

- ・ 専門試験（記述式） ※公共政策からは1題のみ選択可。

憲法、行政法、民法、国際法、公共政策（2題）から任意の3題解答

- ・ 政策論文試験

- ・ 人物試験

【農水省の法律】

農水省では現在、[食料・農業・農村基本法の見直しに向けた議論](#)が行われています。皆さんが入省する頃には、基本法自体の改正は終わっていると思いますが、それに関連した法令や計画などの大きな見直しが続いているでしょう。この他にも近年では、[漁業法の70年ぶりの大改正](#)や[農協改革](#)、[種苗法の改正](#)など国内外の動向を踏まえた法改正が行われています。

このような時代の動きに合わせた制度の見直しに関わる機会が多くあるのも農水省の魅力だと思います！

（もちろん官庁訪問時には法律の細かい内容は知らなくて大丈夫です！）



法律区分編（1次試験）

【Points!】

特に法律区分は1次試験から2次試験まで覚えなければならないことが多くあります。選択科目をうまく選んだり、場合によっては取捨選択したりしながら勉強していた人もいますようです。勉強に集中しすぎて、人物試験や官庁訪問の対策が十分にできなかったという声もあり、公務員試験のプロセス全体を見渡して、対策のバランスを考えることも大事です。

【専門試験（多肢選択式）】

1次試験の対策は、主要科目と選択科目で異なるでしょう。

まず、主要科目は、1次試験での配点が非常に大きく、2次試験の出題科目でもある憲法・民法・行政法の3科目です。これらは、「配点の高い憲法・民法・行政法に絞って講座で配布された問題集を2~3周した。」「予備校で配布された過去問（30年分くらい）をひたすら解いた。」などと力を入れて勉強したとの声が多く聞かれます。遅くとも年明け頃には論述の対策に入れるように基礎知識の習得は早めにしておくことをおすすめします。

一方、選択科目（商法・刑法・労働法・国際法・経済学・財政学）については、どれくらい広く・深く対策したかは人により差があります。たとえば、「選択問題は、刑法・労働法・国際法を中心に、商法と財政学も簡単に対策して余裕を持たせた。」との声がある一方で、「講義を一通り視聴しただけ。」や「テキストを眺めたくらいで試験当日を迎えてしまった。」との声もあります。なお、定番の『スーパー過去問ゼミ』シリーズには、商法と国際法の巻は存在しないので独学の場合は対策しづらいかもかもしれません。

全体として、インプットは軽く済ませて、アウトプットを重視した勉強をしていた人が多いようです。「エビングハウスの忘却曲線に習って、復習重視で学んだ事を習った直ぐ、当日寝る前、翌日早朝、3日後の朝、1週間後、などと問題を解いた。」「教科書の理解は全然完璧でなくていいので、問題を解きまくりましょう。素振りをマスターしても、練習試合をしなければ本番ずっこけるのと同じですね。」「知識はもちろんのこと、5択問題をどうやって解くのかを体で覚えられれば、本番もいけます。」などの声があります。



法律区分編（2次試験）

【専門試験（記述式）】

まず、科目の選択については、憲法・行政法・民法の3科目を固めた人もいる一方で、民法を忌避して公共政策を選択したという声も多く聞かれました。この点については、来年度から選択科目が2科目になり、状況が変わるかもしれません。

・法律科目

対策法については、1次試験同様にアウトプットを重視した勉強法が多かったようです。ただし、アウトプットの仕方には各自工夫が見られ、「毎回答案を作っていると時間がかかり過ぎるので、基本的には論点を書き出す練習をし、たまに答案として文章化する形で勉強していました。」「記述対策講座は3倍速でみつつ、生協の記述対策本をワードで打ちまくって、体で覚えていた。」「1次試験が終わってから1日1本を目標にして実際に答案を作成した。」などの声があります。

当日に解答を書き切る練習のためにもある程度は手書きで丸々書いてみる練習は必要（添削してもらえ環境ならその後の書き直しも有効）ですが、同時に、効率的な学習のための工夫も取り入れてみるとよいでしょう。

対策の程度については人それぞれで、「学者の本や司法試験対策の参考書などにも目を通した。」との声もある一方で、「1次試験通ると思ってなかったのが、突貫工事をしたというのが正直なところ」、「1次が終わってから、憲法、民法、行政法の事例問題を1周し、不安な部分だけ2周しました。」「完璧を求めすぎず、身の丈にあった及第点くらいの出来を目指して勉強しました。」などの声も聞かれました。

筆記試験に通らないことには仕方ないですが、他方で、やるべきことは筆記試験対策だけではないので、時間の使い方には注意が必要でしょう。

・公共政策

政策論文とセットで対策した人が多いようです。「第1試験後に、公共政策Aと政策論文対策の本を買ったり、「ざしわらの家」HPを読んだり、NOTEサイトで対策法を学んだ後に、過去20年分を解いて、何が行政官に求められているのかを重視して解いた。」「時事問題のようなものも出る場合があるので、ニュースを読んでいると得することがあります。」「公共政策は、参考書を1冊買って通学時間に読んだ。」などの声があります。



法律区分編（学習ツール）

【学習に使えるツール】

一般的に法律関係の学習ツールは多数ありますが、国家総合職の試験に特化したものはあまりないのが現状です。以下、内定者が活用したツールを挙げておきます。

- ・ 予備校や生協の講義、付属のテキスト・問題集
- ・ 概説書（例：『憲法学読本』、『行政法読本』）
- ・ 公務員試験対策の参考書・問題集（例：『スーパー過去問ゼミ』、『国家総合職過去問500』、『公務員試験 集中講義！』、『公務員試験 論文答案集 専門記述』）
- ・ 過去問（[開示請求](#)で入手）
- ・ 司法試験対策の演習書・論証集
- ・ 行政書士試験や宅建士試験について解説しているブログ・YouTube（例：「動画で民法がわかーる」）

【非法学部の人勉強法】

非法学部でありながら法律区分で合格している人もいます。しかも、独学という人も。「法学部ではなく、法律の知識が少なかったため、基礎を学べる教科書を読むことから始めた。教科書を読み、過去問を解くことを繰り返した。」「11月から本格的に対策開始（生協の公務員講座の問題集を使用。授業は受けずに問題集だけ使った。また過去問は国総500を使った。）」、「独学であり、記述の答案の書き方がわからなかったため、記述用のテキストを購入して勉強した。重要な論点をひたすら暗記した。」とのことです。また、非法学部で予備校を利用して学習した人の見解として、「専門記述については、市販では問題集みたいなものはないので、過去問を開示請求するか、記述対策の部分だけ予備校等のお世話になると安心かと思います。応援してます。」とのコメントがあります。



政治・国際区分編（構成）

【全体として】

- ・政治・国際区分は内定者28人中4人。
- ・学習形態としては、予備校利用が3人。
- ・大学の所属は、4人とも法学部や政治経済学部。
- ・席次については、上位0~75%の間に広く分布しています。
- ・2024年度の試験から「政治・国際・人文区分」に改編され、人文系の専攻者が受験しやすくなります。詳細は人事院HP（[総合職試験「政治・国際・人文区分」等の創設について](#)）をご覧ください。

【内容】（2023年度まで）

○1次試験

- ・基礎能力試験

知能分野27題

知識分野13題

- ・専門試験（多肢選択式）

必須問題：政治学10題、国際関係10題、憲法5題の計25題解答

選択問題：行政学5題、国際事情3題、国際法5題、行政法5題、民法（担保物権、親族及び相続を除く。）3題、経済学3題、財政学3題、経済政策3題の30題から任意の計15題解答

○2次試験

- ・専門試験（記述式）

政治学、行政学、憲法、国際関係（2題）、国際法、公共政策（2題）から任意の3題解答

- ・政策論文試験

- ・人物試験

2024年度の試験から
政治・国際・人文区分
ができます！！



国家公務員採用試験イメージキャラクター KOHちゃん
(哲学・歴史学・文学ver.)

【農水省の国際性】

国内向けの仕事为中心と思われがちな農林水産省ですが、実は、農林水産品・食品の[輸出促進](#)(海外への販路拡大)、[通商交渉](#)や[水産資源管理](#)に関する交渉など国際的な業務も多く、国際的な知見も活かせる場面が多くあります！在外公館や国際機関、JETRO等の海外ポスト数も外務省に次ぐ数だとか。



政治・国際区分編（1次試験）

【専門試験（多肢選択式）】

必須で出題数も多い政治学や国際関係については、「ひたすら予備校のテキストを読んで、視覚的に知識を詰め込んだ。」「過去問題を解きまくった」「問題演習をする中で、少しでも分からない事柄があれば、隅から隅まで徹底的に調べた。また、調べる中で見えてきた関連事項も時間をかけて理解を深めた。」などと力を入れて学習をしたという声が多くあります。その中でも各自取り入れていた工夫がみられ、「学者名と学説を一致させることに苦労した。学者名とキーワードを紐づけて暗記した。カテゴリー分けをして暗記の効率化を図った。」「リアリズム、リベラリズムなどの国際関係認識論は全体を通してベースになると思った。序盤の単元をしっかりと理解するとスムーズだったと思う。」「英文では、論者や説の代名詞のような単語がバシッとでてくることが多いので、見逃さないように慣れる。」といったコメントがあります。

また、これらの分野を専門とする内定者からは、「テキストに頼りすぎた試験勉強のための勉強ではなく、政治学は自分の関心分野でもあったことから様々なテキストを読み込み理解した。過去問に囚われずに知識を体得した結果がまさに出たと思われる。」「大学で国際関係の講義を多く受講していたので、理論の内容自体は頭に入っていた。」との声があり、大学の授業で学んできたことを基礎として自分なりの学習を行うと効果的なようです。

憲法については、「『この判例はここを聞かれる』というパターンを頭に叩き込んだ。『なぜ、このような判決に至ったのか』という根拠や論理を正しく理解することに力を入れた。」などと、闇雲に暗記するのではなく、過去問を踏まえて判例を中心にポイントを押さえた学習をしていた人が多いようです。

行政学については、テキストと過去問を利用した一般的な学習が中心となりますが、「政治学とリンクさせながら勉強すると捗ると思う。学者や説は混同しないように注意が必要。」との指摘があります。

財政学については、「範囲は広いが出題形式はある程度定型なのと、暗記の部分が多いので、経済系が苦手な自分でも比較的とっつきやすかった。」「財務省が出している前年度予算や国債などに関する資料を適宜確認した。」との声があります。

国際情勢については、「国際ニュースを確認する程度」、「国連などの国際機関で話題になっていることは把握しておくといいと思う。」との声があり、特別の対策をするというより一般的な時事対策の延長という印象です。



政治・国際区分編（2次試験/学習ツール）

【専門試験（記述式）】

対策した科目については、「政治学、国際関係、行政学」が2人、「国際関係A・B、政治学」、「政治学、国際関係、公共政策」となっており、**政治学と国際関係を中心**としつつ多少の幅がみられました。また、**当日の判断で**国際関係を2題解答したり、急遽公共政策を解答したりした人もいたようです。

学習の仕方としては、ややインプットを重視した人が多いようで、「1次試験の勉強で取り残したポイントを洗い出して復習したり、出題実績のある書籍や予備校の先生に勧められた書籍を読んだりした。」、「予備校のテキストに過去問が15年分くらいあったので、各科目まずは全回の模範解答を読んでイメージを定着させた。」、「添削に出す時間がなかったため、予備校の答練や模試の解答を見て、出題されそうなトピックについてノートにまとめた。」との声があります。

また、1次試験対策と同様に大学の講義や文献が役に立ったという声があり、その人によると、「大学の講義を受けていなかったとしても、それぞれの著名な教科書を読みつつ、その他の文献の中で関心があるものを読んでおけば、あとは試験中にいかにそれらを総合して文章化できるかが勝負だと思う。」とのこと。

【学習に使えるツール】

法律区分と同様に、国家総合職の試験に特化したものはあまりないのが現状です。以下、活用可能なツールを挙げておきます。

- ・ 予備校や生協の講義、付属のテキスト・問題集
- ・ 大学の授業、著名な教科書・書籍・その他の文献
例) ・ 久米郁男ほか「政治学」（有斐閣）
 - ・ 村田晃嗣ほか「国際政治学をつかむ」（有斐閣）
 - ・ ジョセフ・S・ナイジュニア「国際紛争」（有斐閣）
 - ・ 真淵勝「行政学」（有斐閣）
 - ・ 伊藤正次ほか「はじめての行政学」（有斐閣）
- ・ 公務員試験対策の参考書・問題集（例：『スーパー過去問ゼミ』、『国家総合職過去問500』）
- ・ 過去問（[開示請求](#)で入手）



経済区分編（構成）

【全体として】

- ・ 経済区分は内定者28人中1人。
- ・ 予備校を利用。
- ・ 所属は法学部。
- ・ 席次は上位0%-25%に位置。

【内容】（2023年度まで）



○1次試験

- ・ 基礎能力試験
知能分野27題
知識分野13題

・ 専門試験（多肢選択式）

必須問題：経済理論16題、財政学・経済政策5題、経済事情5題、統計学・計量経済学5題の計31題解答

選択問題：経済史・経済事情3題、国際経済学3題、経営学3題、憲法3題、民法（担保物権、親族及び相続を除く。）3題の15題から任意の計9題解答

○2次試験

- ・ 専門試験（記述式） ※公共政策からは1題のみ選択可。

必須問題：経済理論

選択問題：財政学、経済政策、公共政策2題から任意の2題解答

- ・ 政策論文試験
- ・ 人物試験

【農水省の経済官庁としての側面】

農水省に経済のイメージはあまりないかもしれませんが、農林水産物が生産され、加工・流通を通して消費者に渡るという一連の流れはまさに経済活動です。たとえば、金融を専門に扱う課があったり、最近では適正価格の形成が課題となっていたりと、制度を作る上で経済の専門知識が活かされる場面もあるでしょう。



経済区分編（1次試験）

【専門試験（多肢選択式）】

経済区分は他の区分に比べ暗記が少なく計算が多いため、慣れてくると安定して得点しやすいです。過去問と同じパターンで出題される科目が多いため、過去問を解いて慣れていくことが重要だと思います。私は暗記が得意ではなかったので計算問題を優先して勉強していきました。

経済理論については、テキストで大まかに理解した後、過去問を繰り返し解いて、問題に慣れていきました。得点源なので分からないところがないようにしたいです。

財政学についても、テキストで大まかに理解した後、過去問を繰り返し解いて、問題に慣れていきました。経済事情に通じる部分もあるため、予算など暗記もしっかり行いました。計算は経済理論の延長のような形なので、先に経済理論を理解してから取り組むことをおすすめします。

統計・計量経済学については、大学の講義内容を思い出しました。出題パターンは同じなので過去問を繰り返し解きました。得点につながりやすい科目だと思います。

国際経済学については、経済理論と被る内容だったため、この科目に向けたインプットはしなくて十分でした。過去問を解いて、問題に慣れました。かなり得点につながりやすい科目だと思います。

憲法については、テキストを一通り見ましたが、その後重要判例と統治を軽くおさらいした程度で、経済系の科目で手一杯だったのであまり勉強できませんでした。結果から考えるとそれでよかったように思います。

経済史・経済事情については、テキストを読み込みました。新聞なども読むようにしました。勉強が得点に直結しにくい部分なので比重はかなり軽くしました。





経済区分編（2次試験/学習ツール）

【専門試験（記述式）】

経済区分の2次試験対策としては（公共政策を選択しなければ）論述の対策はそれほど必要ありません。小問に沿って問題を解いていくので、途中式や補足の文章を書くという形が多く、何百字で記述するというような問題は少ないです。難易度は1次試験と同じかやや難しいくらいです。

対策として、私は予備校の先生に紹介していただいた書籍（試験委員の方が執筆したもの）を読むことに主眼を置きました。その範囲から出題される可能性が高いとのことで、その書籍を読み込みました。その分1次試験の復習が疎かになってしまい、取れた問題を落としてしまったため失敗したと感じています。1次試験の復習とやや難しい過去問を解くなどすると思います。

選択科目は財政学と公共政策Aを選択しました。財政学については計算問題を中心に勉強していたため、簡単な語句問題を落としてしまったと感じています。公共政策Aについては、慣れれば安定してC評価が取れるとのことで、何度か過去問解き、添削してもらおうといった対策をしました。

【学習に使えるツール】

他の区分と同様に、国家総合職の試験に特化したものはあまりないのが現状です。以下、活用可能なツールを挙げておきます。

- ・予備校や生協の講義、付属のテキスト・問題集
- ・大学の授業、著名な教科書・書籍・その他の文献（例：武隈慎一『入門ミクロ経済学』）
- ・公務員試験対策の参考書・問題集（例：『スーパー過去問ゼミ』、『国家総合職過去問500』）
- ・過去問（[開示請求](#)で入手）





院卒・行政区分編

【全体として】

- ・院卒・行政区分は内定者28人中6人。
- ・学習形態としては、予備校利用が4人、独学・その他が2人です。
- ・院における専攻は、法学や公共政策学の分野が多いですが、理系の人もいます。
- ・席次については、上位0%~100%の間に広く分布しています。

【内容】（2023年度まで）

○1次試験

- ・基礎能力試験

知能分野24題

知識分野6題

- ・専門試験（多肢選択式）

以下の選択Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの中からいずれかを選択し解答

選択Ⅰ（政治・国際系）、選択Ⅱ（法律系）、選択Ⅲ（経済系）

→それぞれの出題内容については大卒の各区分を参照。



○2次試験

- ・専門試験（記述式）

政治学、行政学、国際関係（2題）、公共政策（2題）、憲法、行政法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、国際法、経済理論、財政学、経済政策から任意の3題解答

- ・政策課題討議試験

- ・人物試験

【Points!】

出題数や出題科目に多少の違いはありますが、概ね大卒春試験の各区分と同じです。対策の方法や注意点についても大卒各区分を参照してください。



春試験（失敗談・アドバイス）

【失敗談・アドバイス】

ここでは実際に春試験を経験した私たちだからこそお伝えできる失敗談やアドバイスを紹介します。心に余裕を持ちつつ合格を勝ち取るためにぜひ参考にしてください！

・学習の開始時期について（多数）

→スタートは早かったもののギアが入るのが遅れたという声も。遅くとも1次試験の半年前には本腰を入れて学習を始めるとよいかと思えます。春試験の直前期は各省の説明会やワークショップが多数開催される時期でもあるので、それらへの参加も考慮して余裕を持った学習スケジュールを立てておくとういでしょう。

・筆記試験対策と人事院面接・官庁訪問対策のバランスについて

→内定を得るためには筆記の勉強だけでは足りません。筆記試験対策を進めつつも説明会に参加したり、身上書の内容を練ったりする時間も確保することが求められます。

・英語試験の活用による加算について

→もちろん加算なしでの合格者もいますが、多くの人が加算を受ける中で自分には加算がないということが不安の元となってしまったという声も。早めに25点加算の基準点を達成しておくとういでしょう。

・問題演習のタイミングや学習の偏りについて

→全範囲を学習してからようやく問題演習に入ったらすでに最初の方の内容を忘れていたという声も。新たに学習した範囲はすぐに問題演習もするというを繰り返した方がよいでしょう。また、一部の科目に集中して他の科目は手付かずというのも不安の元です。「早めに、広く、ざっくりと。完璧でなくていいので、各科目7~8割を目標に、早め早めに学習されるといいと思えます。」とのアドバイスがありました。

・長時間にわたる試験時間について

→過去問演習は科目や分野ごとにバラして解くことが多いですが、本番は多数の科目や分野を数時間休みなく解き続けることになります。たまには本番並みの練習をして慣れておくとういでしょう。

・公務員志望仲間について

→大学や学部によっては、周りの人が民間就活ばかりとなることもあります。「孤独感」があったという声も。面接の練習をしたり論述や身上書の添削をし合ったりする仲間を積極的に作るとよいでしょう。ただし、学生間で根拠の乏しい噂が流れることもあるので要注意です。

官庁訪問の概要	p.35
官庁訪問先	p.36
待合室の過ごし方	p.36
当日の服装・持ち物	p.37
聞かれた質問	p.38
対策方法	p.39
説明会の参加回数	p.40
オススメのイベント	p.40
最後の決め手	p.41

2 官庁訪問

官庁訪問の概要

【特徴】

- ・ 国家総合職試験の最終合格後に、志望省庁に採用されるためのステップ
- ・ 受験者は志望省庁をクール制に準じて訪問し、職員の方々と繰り返し面接を行う
- ・ 第4クールの方々に内々定が解禁

最終合格

1日目	2日目	3日目
A省庁	B省庁	C省庁

1

【第1・2クール】（各3日間）

- ・ 第1志望から第3志望までの省庁を原則1日ずつ訪問可能。（1つや2つでもOK）
- ・ この期間中は訪問する順番を変えることができない。
- ・ 同一クール内で複数回同一省庁に訪問することもできない。

2

1日目	2日目
A省庁	B省庁

3

【第3クール】（2日間）

- ・ このタイミングから訪問順がリセットされる。
- ・ 第1志望省庁を1日目に訪問し、2日目は回らない人が多い。

4

【第4クール】（1日間）。

- ・ 第4クールの17時以降に内々定が解禁となる。

1日目
A省庁

※あくまでも、令和5年度のもので、詳細は人事院ホームページをご確認ください。

内々定

【面接の種類】～農林水産省では、大きく分けて3種類の面接が1日の中で行われます～

秘書課面接

原課面接の前後にある。志望動機等を聞かれたり、伺った内容の確認やその後の流れの説明がされる面接。

原課面接

実際に業務を担当している職員の方々のお話を伺う。

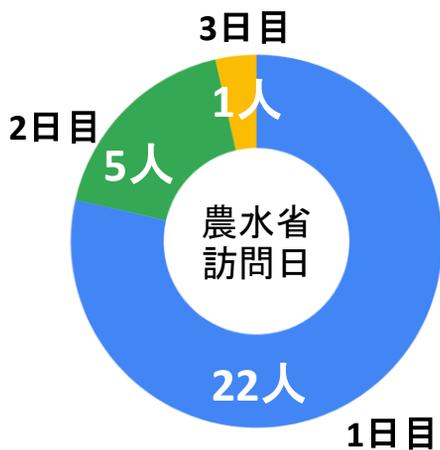
職員の方からの質問はほとんどなく、逆質問等を通して業務への理解を深めていく時間。

出口面接

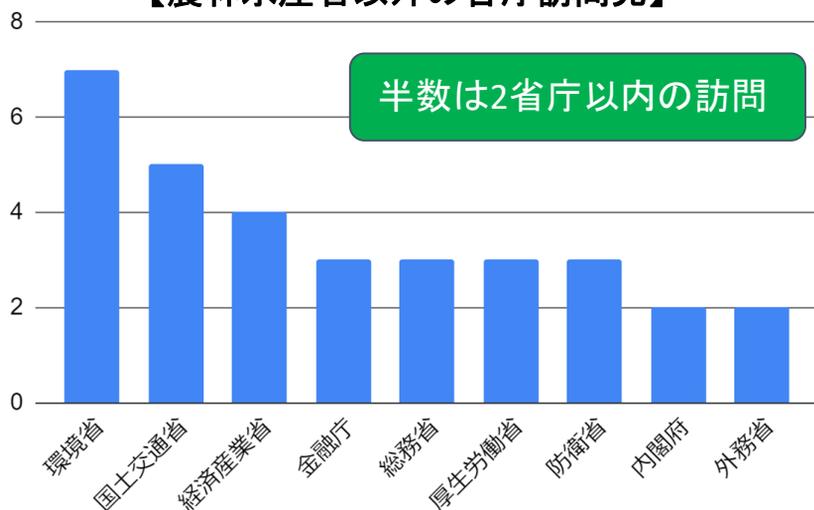
1日の最後にある面接。フィードバックを頂いたり、次クール以降の流れを伝えられる面接。

内定者の官庁訪問の周り先

内定者アンケート



【農林水産省以外の官庁訪問先】



半数は2省庁以内の訪問

※複数人回っている省庁を挙げています。

農林水産省では、全ての訪問日から内定者がいます。

また、他の訪問先は人それぞれですが、2省庁のみ回るといった人も多くいます。

待合室の過ごし方

そもそも、待合室って??

待合室とは、面接と面接の間に案内される部屋のことです！
官庁訪問は1日かけて行われるため、面接している時間よりも、待合室で過ごす時間の方が多くなります！

【内定者に聞いた！】～待合室での過ごし方アンケート～

第1位 同じ机に座った人と話す

第2位 職員の方とお話する／原課面接の振り返り

第3位 机に置いてあるお菓子を食べる

内定者のほとんどが、似たような回答でした。

原課面接の振り返りに集中したり、周りの人と話したりとメリハリを付けて待合室での時間を過ごしています！

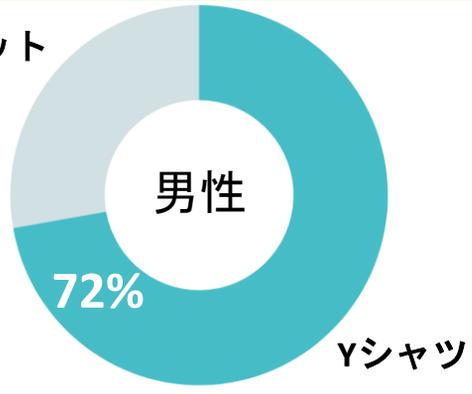


官庁訪問当日の服装

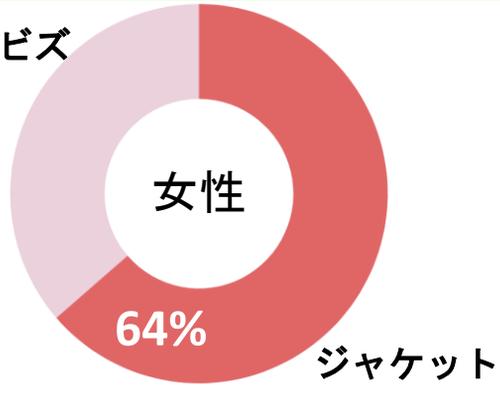
内定者アンケート

6月に行われる官庁訪問では、クールビズで大丈夫なのか心配する人もいるかと思いますが、そこで、実際に内定者がどのような服装で官庁訪問に臨んだのかをお伝えします！

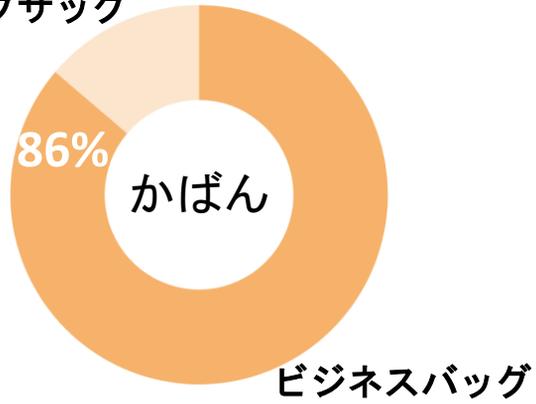
ジャケット



クールビズ



リュックサック



官庁訪問は、

【クールビズ】

で問題ありません。

官庁訪問に最大限集中できる格好で臨みましょう！



官庁訪問のオススメの持ち物

【これは持って行け！】

携帯電話
筆記用具
クリアファイル
身分証明書
財布
ハンカチ

【あると便利！！】

お菓子	ワックス
飲み物	本
説明会の資料	ワイヤレスイヤホン
汗ふきシート	身上書のコピー
パソコン	4色ボールペン
充電器	歯磨きグッズ

一番大事なことは【自分と向き合う心】や【農政の課題に向き合う気概】です！



【秘書課面接】

～農林水産省について～

- ・ 農林水産省でやってみたいこと
- ・ 志望動機（なぜ国家公務員か、なぜ農水省か）
- ・ 原課面接の感想や学んだこと
- ・ どのような業務に携わってみたいか
- ・ 日本の農業の課題とその解決策について
- ・ 農林水産省に関係のない社会課題について
- ・ 理想とする将来の国家像

～訪問者について～

- ・ 学生時代に力を入れたこと
- ・ コロナの期間はどのようなことに取り組んだのか
- ・ なぜ大学院に進学したのか
- ・ 大学ではどんな勉強や研究をしているのか
- ・ 部活動で一番思い出に残っていること
- ・ 部活動で最も苦労したこと
- ・ リーダーシップを発揮した経験
- ・ クラブやサークルでの自分の役割
- ・ なぜその強みか、強みをどう活かすか
- ・ 自分をどんな人物と認識しているか
- ・ 人生のターニングポイント
- ・ 人生で一番楽しかったこと
- ・ 他に訪問した省庁との比較（志望度など）

【原課面接】

原課面接は、堅い面接の形式ではなく、職員の方から実際に担当されている業務内容を説明していただき、逆質問をするといった流れになります。

質問される場合もありますが、会話の流れの中での質問になることがほとんどです。

～聞かれた質問～

- ・ 志望動機
- ・ 関心のある政策分野
- ・ なぜその分野に関心を抱いたのか
- ・ この課題に対して、どのような政策をとるべきか
- ・ 自分の質問に対して「君はどう思う？」

【面接対策】

志望動機を複数回深掘りされても問題ないように入念に練る

💡 友人や先輩、予備校の先生方に手伝ってもらった人も多数いました！

民間就活で面接練習を積む

💡 実際に逆質問のタイミングでFBを頂いたり、就活の軸を固めたりしたようです！

説明会で配布された資料や興味のある政策分野の白書に目を通す

💡 自分の問題意識との照らし合わせや政策の目的を考える練習として使用していたようです！

【訪問中に意識したこと】

- ・自分で考えて自分の言葉で話す
- ・自信を持って考えを伝える
- ・明るくハキハキ楽しそうに
- ・興味を持って積極的に質問する
- ・自然体で振る舞う
- ・焦らず正直に答える
- ・何を聞かれているのかを理解する
- ・「何を学んだか」を整理する
- ・視野を広く持つ
- ・聞いたことを吸収して成長する

【参考にしたもの】

- ・内定者の声
- ・先輩の情報
- ・官庁訪問体験談
- ・説明会の資料
- ・ [BUZZ MAFF](#)

【官庁訪問中の雰囲気】

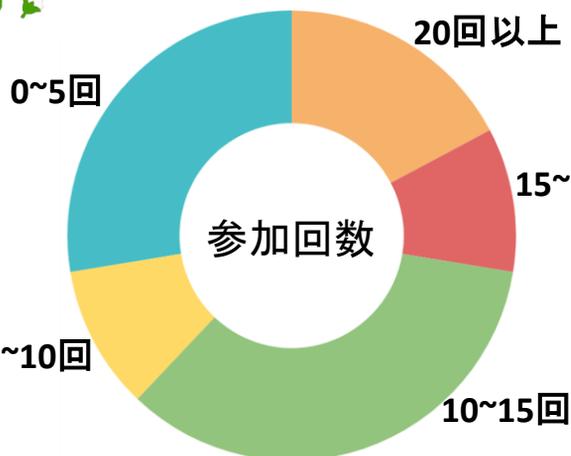
- ・緊張はするが和やか
- ・時間とともに和気藹々となる
- ・職員さんも和やか
- ・雑談が多め
- ・お菓子や飲み物が嬉しい
- ・運動会のような雰囲気

これまでも多くの声上がる
農水省のイベント紹介はこちら！！



説明会の参加回数

内定者アンケート



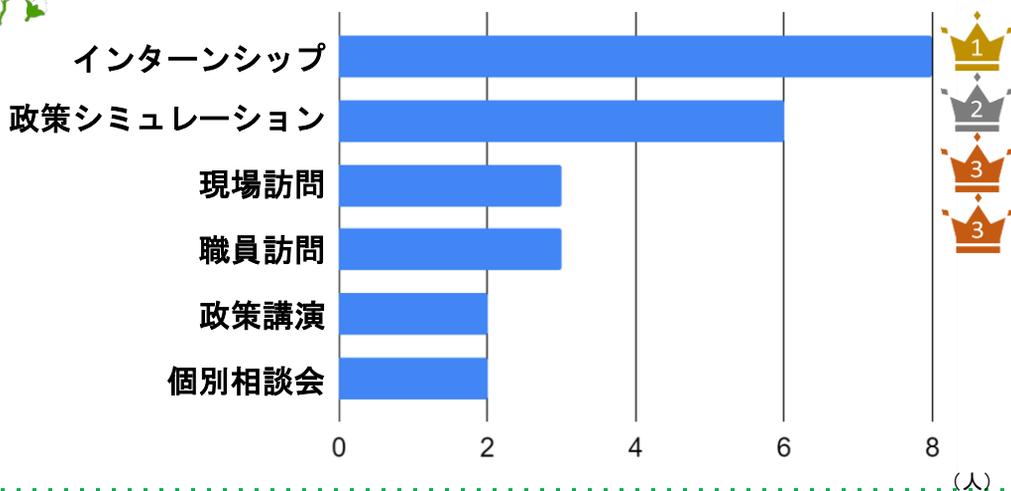
内定者の**6割**以上の方が、**10回以上**説明会に参加していました！
一方で、**ほとんど参加しなくても**内定に至る人もいました！

農林水産省では

政策講演、政策シミュレーション、採用担当との座談会、職員訪問、現場訪問

などの様々なイベントが用意されています。[農水省HP](#)から気になるイベントを見つけてぜひ参加してみてください！

オススメのイベント紹介



【イベントに参加した感想】

☆インターンシップ(当時の名称)

農林水産省の職場の雰囲気がよくわかる。

☆政策シミュレーション

自分の考えに対して現役の職員の方々からフィードバックをもらうことができる貴重な機会だった。

☆現場訪問

農業の実情や農家の方々の情熱を学ぶことができる。

☆職員訪問

自分の関心事項や疑問点について説明会よりも詳しく質問することができる。

官庁訪問中は、自分自身と向き合い、「自分が本当にやりたいことは何なのか」を考えなければなりません。他省庁や民間と迷っている方も多いと思います。

そこで、他省庁や民間と迷った理由と、最後に農林水産省に決めた理由についてアンケートを基にまとめました。

～環境省～

(迷った理由)

- ・ 原課面接にて想像以上に興味を惹かれた。
- ・ もともと自然環境に興味を持っていた。
- ・ 国内外の経済や社会を巻き込んでいける点でより大きなことに関われるのではないかと考えた。
- ・ 環境政策は今後必ずやらねばならないことであり、将来の視点を大切にしていた自分にとって魅力的であり意義の大きい省庁だと考えた。
- ・ 職員数が少なく1人あたりのやることが多くてやりがいがあると感じた。
- ・ 民間ではやりにくい長い視点を持った仕事ができる点に魅力を感じた。

(農水省への決め手)

- ・ 訪問のない日に、原課での学びをまとめていた際に、農水の政策を考えるのが楽しかったから。
- ・ 就活にあたり"現場感"をキーワードにしていたが、基盤産業がある上での現場感を自分が求めているのだと気付いたから。
- ・ 組織体制として、安定感のある農水の方が自分に合っていると思ったから。
- ・ 農業や農村振興など別の視点から環境のことを踏まえつつ政策を考えていく方が、より国に貢献できるのではないかと考えたから。
- ・ その組織でやりたいことをより明確に考えられたのが農水省だったため。
- ・ 農水省の業務(食)が人が生きる上で最も大切だと思ったから。

～金融庁～

(迷った理由)

- ・ 専門性を身につけられそう。
- ・ 国際業務が多い。
- ・ 組織が新しく建物がきれい。
- ・ 金融というツールを通して幅広く経済の活性化を図れる点。

(農水省への決め手)

- ・ 農水省も海外に関われる機会が多い。
- ・ 職員や官庁訪問中の学生の雰囲気良かった。
- ・ 職員の方の仕事に対する熱意。
- ・ 第1次産業に大きな可能性を感じた点。

～国交省～

(迷った理由)

- ・地方の維持・活性化に関わりたかった。
- ・旅行で日本全国巡る中で、農山漁村や食の魅力を感じるとともに、インフラの重要性も感じた。
- ・国交省は他省庁と迷うことに非常に寛容であるように感じ、その悩みに寄り添ってくれた。
- ・地方創生を志望動機としていた中で、交通インフラや物流、観光が魅力的なツールであった。
- ・観光は、地域の魅力を活かしつつ、宿泊や飲食、レジャー施設など幅広い産業を巻き込んで地域経済を活性化できると思った。
- ・国内の各地域における「住みやすさ」を整えることで、人々がプラス要因によって住環境を選択できる社会をつくりたいと思った。
- ・職務の内容にある程度の具体性があったから。

(農水省への決め手)

- ・農林水産業やそれがあってこそ成り立つ食品産業や観光業の重要性や成長性を感じたから。
- ・農水省の人の雰囲気自分が合っていると感じた。
- ・自分が魅力を感じる農山漁村により直接的に関われると感じた。
- ・待合室の学生や職員の雰囲気などから、農水省の方が居心地が良いと感じた。
- ・省の管轄するあらゆる分野に関心が持てるというのが大きな決断要素だった。
- ・今後何十年と働き続けることを想定した場合、農水だったら何をやっても面白いと感じる自信があった。

～防衛省～

(迷った理由)

- ・もともと大学の講義で安全保障をめぐるトピックに触れていたことに加え、時勢も相まって、強い関心をもっていた。
- ・将来、重要性がさらに増す領域であることから、取り組みがいがあると感じていた。

(農水省への決め手)

- ・安全保障について、「食」という1つの観点から、多様なアプローチをとっている点に面白さを感じたから。
- ・産業従事者をはじめとした関係者・市民の方と一緒に課題を解決していく形態に魅力を感じたから。
- ・面接して下さった職員の方の熱意に惹かれたから。

～経産省～

(迷った理由)

- ・国富の拡大という理念に共感したほか、エネルギー関連に関心があり、所掌の広さにも魅力を感じていた。
- ・採用担当者と話す機会が多く親しみを持てた。
- ・「霞ヶ関のアクセル・エンジン」と呼ばれるほどの改革マインドは強力で、経済社会の構造から公務員の働き方まで、変革を目指す姿勢に魅力を感じた。
- ・再エネ分野に興味があったため。
- ・所掌分野が広く、様々な角度から課題に向き合えると感じたため。
- ・産業政策に携わりたいという軸で省庁を選んだので、民間企業の代弁者である経産省と地方の基幹産業を支える農水省で迷いました。

(農水省への決め手)

- ・人間が生きていくうえで根源的に必要な第1次産業の変革が必要であると感じた。
- ・経産省ではカバーできない部分に、自分ならメスを入れられるのではないかと思った。
- ・秘書課・原課・学生と関わるなかで最もウマが合ったのが農水省であった。一緒に働きたいと思える人がたくさんいるところを選ぶべきと考えた。
- ・その組織でやりたいことをより明確に考えられたのが農水省だったため。
- ・農水省の職員さんの雰囲気の方が自分と近いと感じたため。
- ・農水省は食に特化しているので、分野が比較的絞られている方がキャリアプランを立てやすいと感じたことも決め手になりました。

～財務省～

(迷った理由)

- ・大学同期が多く志望しており一緒に働きたいという思いがあった。
- ・政策立案ワークショップ等を通して、社会全体を中立的な立場から見ていく財務省は自分に合っているのではないかと感じていた。
- ・キャリアの中で幅広い政策に関われることに魅力を感じた。

(農水省への決め手)

- ・自分の中でより関心の強い政策分野が、日本の地域環境や第1次産業であったから。
- ・農林水産政策は改革期に差し掛かっているため、広い視野から考えていくべき政策分野であり、できることが多いと感じたから。
- ・現場を持ち政策の手触り感が強い点が自分に合っていると感じた。
- ・官庁訪問で会った職員の方の熱い想いに惹かれた。

～総務省～

(迷った理由)

- ・「地方」をど真ん中で扱っている。
- ・地方出向の多さは単純に面白そうだった。
- ・地方への関わり方や取りうるツールの選択肢が農水省よりも広いと感じた。

(農水省への決め手)

- ・総務省は総論的な施策を行っているが、もう少し具体的な分野(農林水産業、交通、観光...)に関わりたと思った。
- ・特定の分野について、国内の状況をよく知ったうえで、国際的な場で交渉(農業分野の関税、漁業資源管理など)したり、国際的なルールを国内でうまく実施していったりする仕事の方が自分には面白そうと感じた。
- ・農業生産に重要な役割を果たしている農地を守る、積極的な取り組みをしている地域を支えるといったある程度強弱をつけた施策の方が納得感を持って関われると思った。
- ・農水の雰囲気の方が自分にあっていると感じた。
- ・田舎であればあるほど重要になる農林水産業という産業を所管している農水省の方が地方振興に直結していると考えた(農林水産業のない村は想定し難い)。
- ・農林水産省だと地方出向と海外経験もできるというところと、なにより官庁訪問中の職員さんの温かさから決めました。

～消費者庁～

(迷った理由)

- ・新しく小さいなりに、その特徴をうまく活用して政策立案などに生かすという職員の共通認識を実感し、面白そうに感じたため。
- ・総合職でありながら、徳島で研究・分析に従事できる環境に魅力を感じたため。
- ・官庁訪問期間中に、面接でお話した職員さんと様々な論点で深い議論をすることもでき、人柄や環境に魅力を感じたため。

(農水省への決め手)

- ・農林水産行政と消費者行政のどちらなら関わり続けられるかと考えたとき、前者への思いが上回っていたため。
- ・若手のうちに地方や海外の現場をしっかりと経験することができるから。

～外務省～

(迷った理由)

- ・外交官に中学生の頃から憧れていた。
- ・高校や大学で学んできたことが活かせると思った。
- ・国際社会の潮流を読み取って、その中での日本の在り方を最前線で創造していくことは、外務省ならではの任務で、大きな魅力に感じていた。
- ・安全保障、貿易、軍縮など様々な分野で、他国とルール形成を行っていくことに関心があった。
- ・国際間で合意した内容、目標をいかにして国内で実現していくか、という視点や、特定の産業についての詳細な知見は産業を所管する省庁の方が優れていると考えていたため、悩んでいた。

(農水省への決め手)

- ・「省のカラー」が一番自分に合っているという直感があった。
- ・職員の方々も、一緒に官庁訪問を過ごした人たちも、熱意に溢れかつ温かく親身で、一緒に働きたいと強く思った。
- ・イベントへの参加を重ねる毎に、農水省の組織風土や所管業務に大きな将来性も感じた。
- ・4クールを通して最も成長できたと感じたのが農林水産省での官庁訪問だったから。

～厚労省～

(迷った理由)

- ・人々の生活を様々な面から支えるため、広く国民生活(ひいては自分自身の生活)に関わることができるから。
- ・コロナの影響で医療施策の大切さを感じたから。
- ・高齢化が進む中、最も課題が多い省庁だと感じていたから。

(農水省への決め手)

- ・農業という分野に特に強い関心を持っており、官庁訪問中も職員の方々の話を最も興味やワクワク感を持って聞くことができたから。
- ・農水省であれば、一人ひとりと向き合って施策を行っていくことができると感じたから。

【Points!】

初めは自分自身の直感や学んできたこととの関わりからやや広めに省庁を選び、その後、説明会やワークショップへの参加を通して、自分がやりたいことを明確化したり、職員や周りの学生(将来の同期)の雰囲気を感じ取ったりしながら、徐々に絞っていった人が多いです。

迷うことは決して悪いことではありません。様々な機会を最大限活用して、自らの気持ちや思考を地道に整理していき、また、それを言語化していくことが重要かと思います。

～金融系～

(迷った理由)

- ・ワークライフバランスが良さそう。
- ・オフィスがきれいで立地がいい。
- ・率直に、給料と福利厚生が魅力的だった。
- ・志望していた企業は、食を支える基盤である農林水産業の維持・発展を使命に掲げており、自分自身の実現したいことに近いと感じた。
- ・融資やコンサルの分野では事業者と伴走することができるため、人のため・地域のためになっているとの実感を得やすいのではないかと考えた。

(農水省への決め手)

- ・職場の雰囲気や職員、官庁訪問中の学生の雰囲気が良かった。
- ・利益を上げることよりも、社会に与える影響の大きい仕事をしたいと考えたから。
- ・それぞれの組織が掲げるミッションなどを振り返り、どちらがより自分の思いと合致するかを判断軸にした。
- ・農・食に関する幅広い分野に興味を持っていたため、働く上で、農水省の方が楽しめそうだった。
- ・自分の中での給料の優先順位がトップではなかった。

～教育・コンサル～

(迷った理由)

- ・「教育」の重要性を認識するなかで、競争の中でよりよい教育サービスを作り上げていこうとする点に魅力も感じたため。
- ・「民間」という選択肢もしっかりと比較検討したうえで、官庁訪問に臨もうと考えていたため。

(農水省への決め手)

- ・比較していくなかで、特に国家公務員総合職は、マクロな視点で理想を本気で考えて実現しようとしている人たちの集まりだと感じ、そちらの環境の方が長く楽しく働き続けられるのではないかと考えたため。
- ・マクロ・ミクロ双方の視点から課題に取り組む働き方は、国家公務員が最も実現しやすいと感じたため。
- ・国家公務員の方が、修士課程の学生に対する理解があったため。

～電力・ガス会社～

(迷った理由)

- ・ エネルギーに関心があり、公務員では見られない現場の最前線で働けるから。
- ・ 政策を踏まえて経済活動をするのは基本的に民間企業である。
- ・ 給料の高さや労働環境の良さ。
- ・ 公益的性格が強いので、公務員を志望する自分と考えや人柄が合う人が多かった。
- ・ 官庁訪問が済むのを待ってくださる企業もいくつかあり、その企業にはやはり仁義を感じた。

(農水省への決め手)

- ・ 官庁訪問を通じて自分の同期たちとコミュニケーションをとり、居心地の良さを感じた。
- ・ 民間企業は最前線の現場をもつ一方、やはり視野の広さはその企業の範囲+αに留まる。一方、農水省では、全国の農林水産業者という、言わばたくさんの中企業経営者を相手取り、その全体に適用できる施策を考えることができる。

～商社～

(迷った理由)

- ・ OB訪問を重ね、商社業界について理解を深めていくにつれて、業務内容が面白そうだと感じた。
- ・ 海外に行けるチャンスが整っている。
- ・ 身近な人間が商社で働いていたこと。

(農水省への決め手)

- ・ 農水省の職員や同期の人柄が良かったから。
- ・ 農水省も、海外ポストが外務省に次いで多いため、海外で活躍できると思ったから。

【Points!】

選択肢を狭めないために民間も見たという人が多かったです。広くみた結果「やはり国家公務員だ」という気持ちや思考の過程を整理して官庁訪問に臨むとよいでしょう。

また、農林水産省は業を所管している省で、入省後も役所の外の人と関わる機会が多いようです。民間就活を通して広めた知見は官庁訪問や入省後においても活きると思います。

民間就活基本情報 ・ ・ ・ p.49

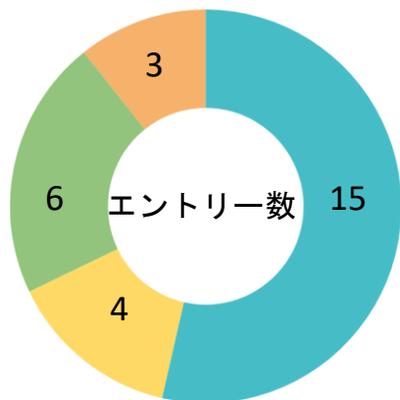
民間就活体験記 ・ ・ ・ p.50

3 民間就活

公務員一本ではなく、民間企業も視野に入れて広く就職活動を行っている人もいます。そこで、民間企業と併願した内定者の言葉をまとめたので、ぜひ参考にしてください。

併願状況

- 0社
- 1~5社
- 5~10社
- 10社~



【民間就活をするメリット】

・民間の内定を得ていたことで官庁訪問に自信を持って臨むことができた。

・民間就活を通して、自己分析の解像度を高めることができた。

→民間ではなく公務員として働くことへのこだわりを発見し言語化ができた。

・面接慣れすることで官庁訪問にも落ち着いて挑むことができた。

志望業界

・金融・商社との併願が多い。

・公務員と同じ軸で業界を選んでいる人もいれば、違う軸で選んでいる人もいた。

民間就活対策

・特に民間企業の就活に向けて何かをした訳ではなく、官庁訪問対策として考えた志望動機を各企業用に合わせるといった形をとった。

・IR資料や日経新聞を読んで業界・企業の理解を深めるとともに、社員面談で得た知識を整理しておいた。

アドバイス

・共倒れしないように自分の中で優先順位を決めること。

→公務員が第1志望なら民間就活に時間をかけすぎないようにする。



民間企業体験記

Aさん（院卒行政）

全体的に民間就活に重きを置いてスケジュールを組んでいた。2022年の4月から企業の説明会に出席し、6月下旬頃からインターンシップに参加し始めた。

就職活動の軸と関心分野を踏まえ、製造業（非鉄金属、化学、鉄鋼）、金融（銀行、政府系金融、系統金融）を中心に20社ほど本選考を受けた。

企業の早期選考対策を2月から始めた。

3月下旬からは官庁訪問のある6月中旬まで、週に1度以上は面接や面談を受けていた。

Bさん（大卒教養）

2023年の2月頃から就活情報誌などで情報を集め、3月に10社程度エントリーした。

金融・インフラ業界は、自分の国家公務員の志望理由に近いと感じ、それらの業界を受けた。

3月末から面接が入り始め、4~5月は毎週1~2回面接を受けていた

Cさん（大卒教養）

2022年夏の短期インターンシップには2社参加したが、本格的に民間就活を始めたのは年明けから。

2月から金融業界6社にエントリーし、ESの作成やOB・OG面談を受け始めた。

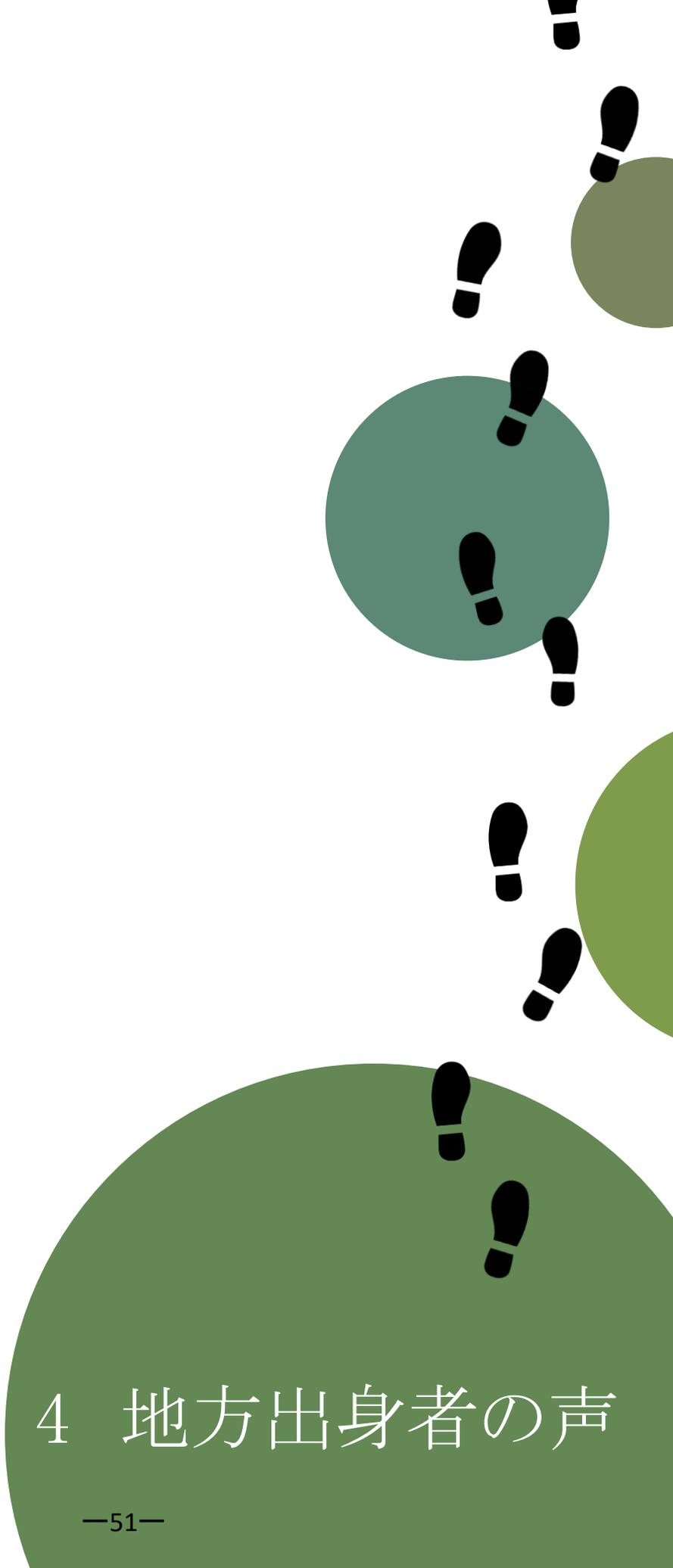
3~4月は毎週2~3回ほど面接があったが、並行して省庁の説明会にも参加し公務員就活にも40%くらいの時間を割くよう意識していた。

リスクヘッジ目的であったため内々定を得た4月末に民間就活は切り上げて、その後は官庁訪問対策に専念した。

【Points!】

「社会について学べる貴重な機会」となったことや、民間企業の就活を通して公務員を志す気持ちが強まったことが多く語られていました。

民間就活との併願は、一人ひとり状況や考えが大きく異なり一般化できないものなので、ぜひ内定者座談会等で個別に相談に来てください！



4 地方出身者の声

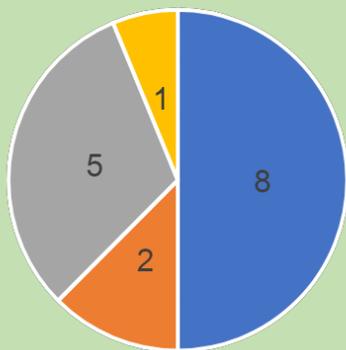
このセクションでは、地方出身者が内定を得るまでにどのように取り組んできたのかについてまとめました。

地方出身者のトークルームを覗いてみましょう。

<4 農水省 地方出身者(5)



地方出身者の割合(16/28)



■ 関西 ■ 九州 ■ 東北 ■ 東海

今年の内定者28人のうち約半数の16人が地方出身でした。

「地方出身者は関東の人と比べて対面で説明会に参加できなくて不利だ」といった不安がよく聞かれますが、この数字を見ると、地方出身者が不利ということは決してないことが分かります。

地方出身の内定者の方は、この不安についてどう考えていましたか。



東北さん

私自身も、対面で参加した説明会は少なく、不安を感じることもありました。しかし、オンライン環境を上手く活用したり、事前準備をしっかりとしたりして説明会や官庁訪問に臨みました。

農水省は、質疑応答の際に対面の人を優先するのではなく、オンライン参加者にも平等に質問の機会をくれます。質問の機会を活用して、職員の方と接するようになりました。

関西さん



「官庁訪問までに関東圏の人がすでに仲良くなっていて、地方出身者は入りづらい」という噂も聞いていましたが、実際にはそんなことは全くありませんでした。むしろ、席に着いた際に周りの人は関東圏と地方出身者で半々くらいの割合で、お互いの出身地について語り合える和やかな雰囲気でした。不安を感じる必要は全くありませんよ！



Aa メッセージを入力





説明会について話が出たけれど、皆さんはオンライン参加がメインでしたか。対面で参加して良かった説明会はありますか。

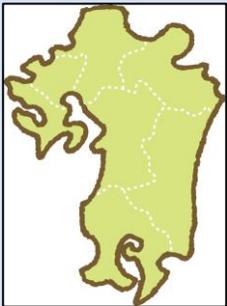


東海さん

オンラインを基本にしつつ、オフライン参加もすることで、自分が無理をしない程度に農林水産省について知ることができました。特に秘書課の人が地方に来たときは逃さないようにしていました。

オフライン参加をすることで職員の雰囲気を感じることができたので、オフライン参加する機会を作れるのであれば、作った方がよいと思います。特に、説明会後の座談会では、普段聞けない些細な悩みをぶつけることができ良かったです。

しかし、オンライン参加のみだった学生もいるので、対面で参加できないことを引け目に感じる必要は全くありません。



九州さん

対面で参加して良かった説明会は、インターンシップと政策シミュレーションです。

地方にいと本省の建物に入る機会がなかなかないため、事前に行っておくことで官庁訪問への緊張もほぐせると思います。

また、職場の雰囲気が実際に分かったり、職員の方から様々なお話を聞けたりしました。

どちらも、他者と意見交換をしながら実際に自分の頭で考えてみる良い機会ですし、官庁訪問以外で自分の考えに対してフィードバックをもらうことのできる数少ない機会です。

プログラム以外のお昼休憩の時間に、他の学生と農水省についての思いを語り合えることは貴重な時間でした。



Aa メッセージを入力



<4 農水省 地方出身者(5)



官庁訪問期間は、約2週間慣れない土地で過ごすことになりますが、どのように乗り切りましたか。注意点や心構えを教えてください。



関西さん

第1クールは、オンライン・対面を選択できます。私は、費用や体力面を考え、第1クールはオンライン参加をしました。

メリットとしては、経済的・体力的にありがたいこと、リラックスして参加できることです。

一方、デメリットは、次の面接の連絡が来るまで家で一人で待っている必要があり、少ししんどさを感じました。



東北さん

私は、第1クールから対面で参加しました。第1クール目から将来同期になる可能性のある仲間の雰囲気を知ることができて良かった半面、大変だった点もあります。

①費用面

移動費、宿泊費、食費など様々な場面でお金がかかってしまいます。都内なので、宿泊費が特に高くかかりました。

②体力面

新幹線での往復は、想像以上に体力と気力をもっていけませんでした。

官庁訪問後に宿泊場所に戻って、コインランドリーまで洗濯をしに行くのが、想像以上に辛かったです。

中には、併願先の都合で官庁訪問中に一度地元まで戻ったため、スケジュールがハードだったという人もいました。

ホテルとはいえ、慣れない環境なので、リラックスすることが難しかったです。



Aa メッセージを入力





東海さん

長い官庁訪問を乗り切るために、自分の安心して挑める環境を作ること大切にしました。毎日安心して楽しく挑むために、物理的に解消できる不安を減らすことや、自分にご褒美をたくさんあげていました。

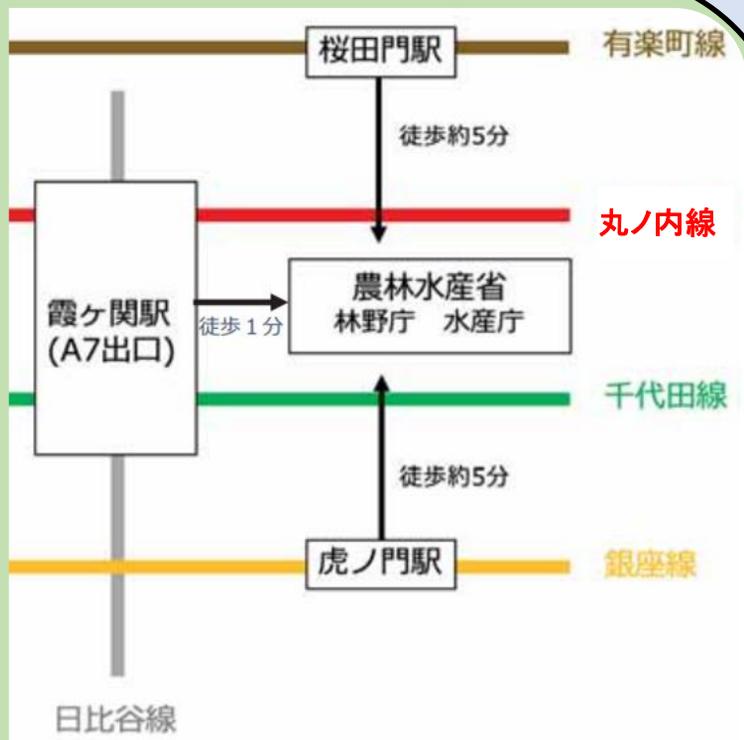
たとえば、電車の乗り換えが不安だったので、省庁から近いホテルに泊まったり、マッサージに行ったり、おいしいごはんを食べたり…。後者のご褒美の点では、地方よりも充実しているので、むしろ都内にいることを有効活用すべきだと思います(笑)

農林水産省は、丸の内線、千代田線、日比谷線が通る霞ヶ関駅から徒歩約1分、有楽町線の桜田門駅から徒歩約5分、銀座線虎ノ門駅から徒歩約5分と様々な路線を利用することができます。

霞ヶ関駅は、地下通路からA7出口へ向かい、建物の目の前に出られるので、雨天時も焦らずに行くことができるのでおすすめです。

今年の内定者は、

- ・ 霞ヶ関駅まで電車一本で行ける丸の内線、千代田線、日比谷線沿線
 - ・ 新橋や虎ノ門周辺（農林水産省の建物から徒歩15分圏内）で過ごした人が多いです。
- 友人宅に泊まったという人もいました。



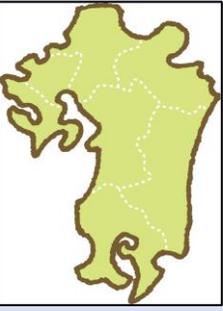
Aa メッセージを入力



<4 農水省 地方出身者(5)



九州さん



私は、官庁訪問前日からホテルに泊まりました。「当日に何か起こるかもしれない」という不安を解消できました。

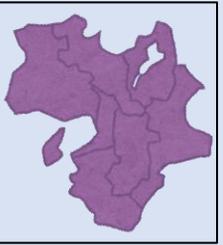
なるべく早く宿泊先を押さえることも大切です（安く押さえることができます。）。電話をすると早い段階かつ長期での宿泊予約に対応してもらえました。

その他に宿泊について工夫した点は、朝食付きのホテルを選んだことです。買いに行く必要がなく楽でした。また、コインランドリーやコンビニなど、周辺状況も考慮して選ぶとよいと思います。

そもそも、官庁訪問の費用は、バイトなどで事前にためておく必要があります。私は、別口座を作って、就職活動用のお金を貯めていました。

官庁訪問期間の土日休みは、どのように過ごしましたか。

関西さん



まずは、よく寝ました(笑)

他省庁の併願をしていたので、朝早く起きて夜まで面接をこなし、職員の話聞き、という毎日想像以上の疲れでした。

疲れが取れたら、せっかく関東に来たのだからと、観光をしたり、おいしいご飯を食べに行ったりしました。

官庁訪問期間中によく自分と向き合って、施策についてもまとめていたため、官庁訪問の復習は最低限にとどめ、とにかくリフレッシュをしました。

東北さん



官庁訪問で知り合った学生と仲良くなっていたため、一緒に出掛けました。



Aa メッセージを入力



<4 農水省 地方出身者(5)



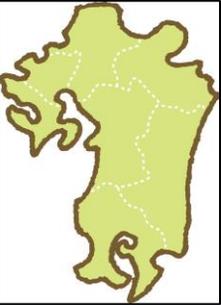
地方出身だからこそ強みだと感じたことはありますか。

東海さん



自身の住んでいる地域の特産や農業政策について調べておくと、雑談のネタや志望動機のきっかけになり、官庁訪問での話のきっかけにもなりました。また、農村が物理的に近いことから、現在の地方や農村の抱える問題を実感しやすく、志望動機などにつなげやすいです。

九州さん



地方の実情を自身の経験として話すことができるのが強みだと思います。私は親が転勤族で九州内を転々としていたこともあり、地方の中でも地域間の経済格差を原体験として書きました。

東北さん



職員の方が赴任したところのある場所の近くが私の出身地であったり、おなじ東北地方出身でそれだけで意気投合したり、そこから話が膨らむことが多かったです。また、地方は、課題を直に感じることができるため、地方にいる間に、体験活動やボランティア活動に積極的に参加してほしいと思います。

地方出身者の話を聞いていると、「大変だった」「苦労した」といった言葉が多く出たと同時に「思ったよりも楽しかった」「充実した2週間だった」と肯定的に捉える言葉も多く出てきました。

この数年でオンライン環境も整備され、地方出身者特有の不利は減りつつあるように感じます。特に農水省は地方でのイベントも多く、地方出身者を大事にしている印象がありました。

一人でも多くの方が、地方から農水省を目指してくれることを期待しています！



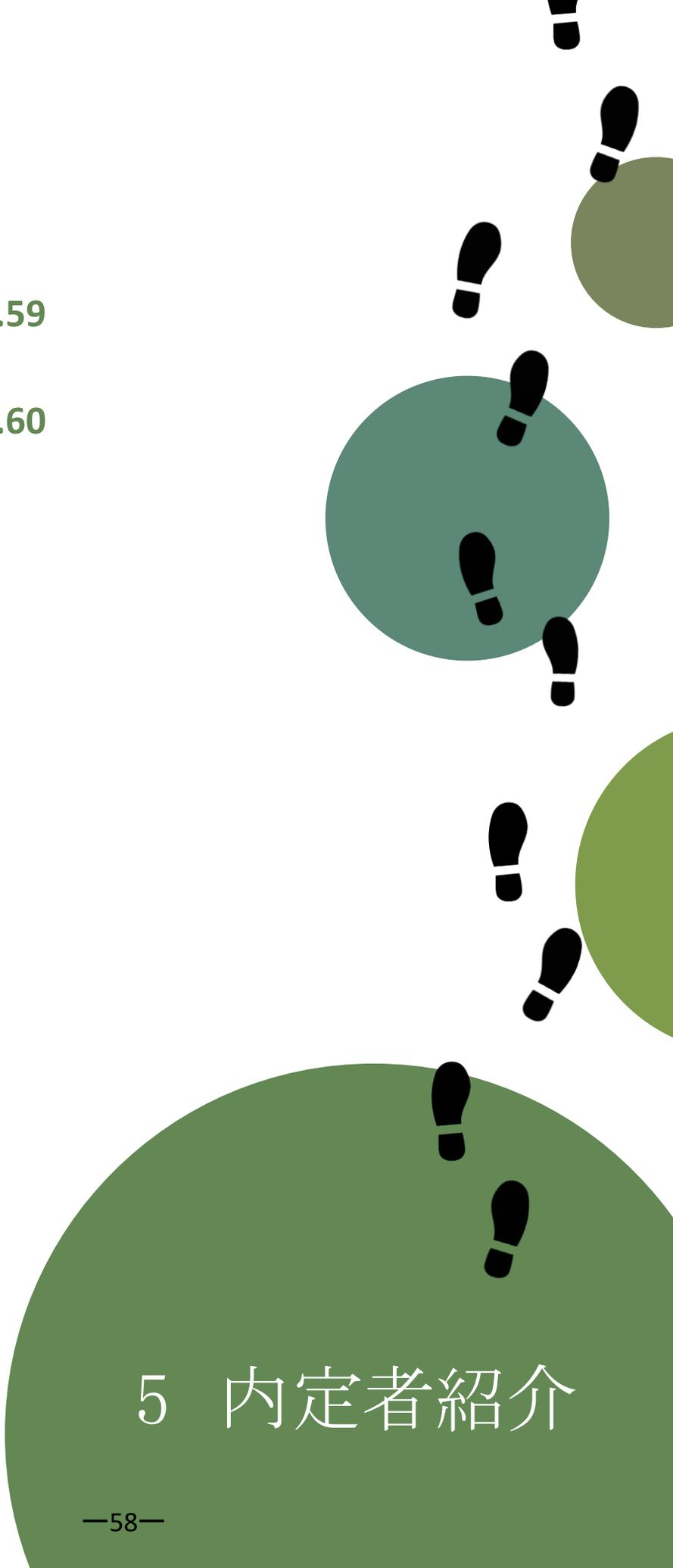
Aa メッセージを入力



基本情報 . . . p.59

紹介 p.60

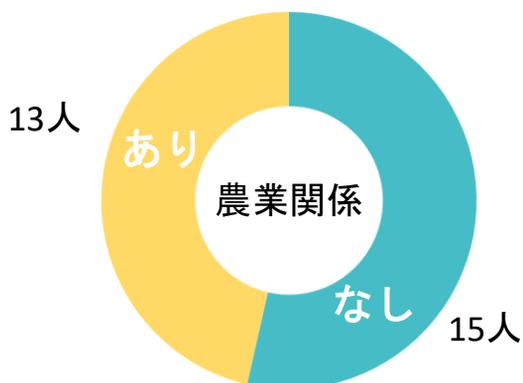
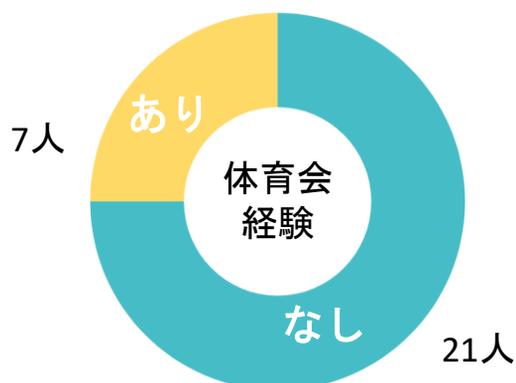
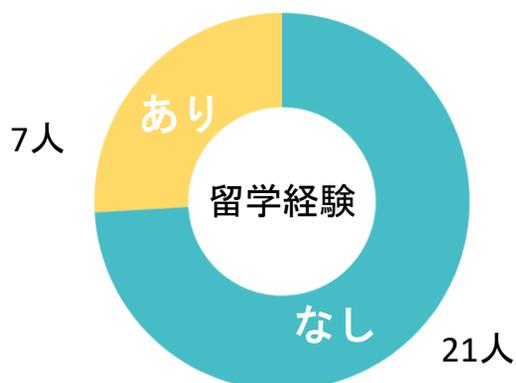
5 内定者紹介





内定者の基本情報

個別紹介の前に、内定者の基本情報を紹介します。



※親が農家であるか農山漁村に住んでいた経験の有無

内定者は、それぞれ多様な経験を有し、それらを踏まえて農水省を選択しています。
これまでは農業が身近でなかったという人も多数います。

内定者それぞれの紹介では

- 興味のある政策分野
- 農林水産省に入省後にやりたいこと
- 学生時代の過ごし方
- 自分を食べ物に例えると？

について、28人全員から聞きました。

これから官庁訪問などに向けて、志望動機を練る機会も多くなると
思います。

ぜひ28人の様々な回答を参考にしてみてください！



Y・Mさん

出身地 : 茨城県

出身大学 : 京都大学大学院

○興味のある政策分野

農業経営、穀物や肥料等の国産化、農村振興

○農水省に入ってやりたいこと

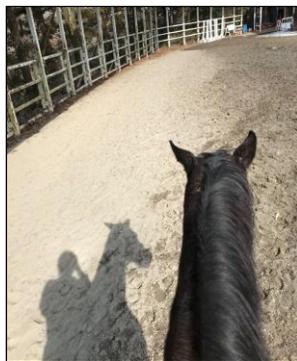
基幹的農業従事者の経営力強化を行いたいです。生産基盤が強く、十分な経営を行っている農家は生産基盤に加えて、経営力があることが共通していることだと思ったためです。

○学生時代の過ごし方

サークル活動として野球を行っており、毎週活動していました。最も力を入れていたのは、教育業界の長期インターンシップで、企業が提供するサービスの立案に携わっていました。

○自分を食べ物に例えると

魚：常に行動を起こせる人でありたいと思ったため。



K・Nさん

出身地 : 埼玉県

出身大学 : 東北大学

○興味のある政策分野

農村政策、GI制度、ジビエ振興、フードテック

○農水省に入ってやりたいこと

地方活性化、縮小する経済の中で持続可能な食料供給を行いたいです。東京から地方へ出て、地方の衰退を目の当たりにしました。当たり前が行き渡るような社会を作り保ち続けたいです。

○学生時代の過ごし方

大学2年間は、馬に費やす生活でした。百姓のように、部活に打ち込み、馬糞に囲まれ乗馬をしている女子大生でした。今思うと、別のことに費やすべきでした。アルバイトや資格取得、旅行、勉強、他にやることはいくらでもできると思います。

○自分を食べ物に例えると

馬肉：常に行動を起こせる人でありたいと思ったため。



K・Bさん

出身地 : 東京都

出身大学 : 上智大学

○興味のある政策分野

地域活性化、農業の脱炭素、食料自給率向上（食料安保）

○農水省に入ってやりたいこと

地域活性化・一次産業振興・エネルギー自給・脱炭素といった課題への対策をミックスさせた政策を作りたいです。東京以外で暮らしたことがないので、積極的に地方に飛んでいきたいです。

○学生時代の過ごし方

探検部で登山やラフティングをし、放送研究会で映像作品を作り、囲碁研究会で囲碁を打ちながら、その合間に歴史を勉強していました。また、日曜朝8:30からプリキュアに興じる生活を19年半ほど続けています。

○自分を食べ物に例えると

白米：関心の幅が広く、色々な人と話題を共有できるから。



A・Kさん

出身地 : 滋賀県
出身大学 : 大阪大学

○興味のある政策分野

一次産品の価格形成、飼料の生産や輸入

○農水省に入ってやりたいこと

ゼミの研究にて漁業者の苦しい現状を知ったため問題意識を持ちました。価格転嫁や生産性の向上を実現することで経営を改善し一次産業を発展させたいです。

○学生時代の過ごし方

卓球部に所属し、のんびり練習に励んでいました。3年次にはゼミでの論文執筆に追われ、そのための勉強や公務員試験の勉強などかなり忙しかったです。もうやりたくない。

○自分を食べ物に例えると

みそ：人をサポートすることが多かったから調味料。



K・Kさん

出身地 : 京都府
出身大学 : 上智大学

○興味のある政策分野

全て

○農水省に入ってやりたいこと

徳之島で親戚の農家のお手伝いをした体験やNHKの酪農の現状を取り上げる番組を視聴したことから、日本が抱える農林水産業の問題点の重大さを認識し、それを解決し、産業を強くすることで将来につなげたいと考えました。

○学生時代の過ごし方

学業に専念しました。図書館を拠点に大学生活を送っていました。

○自分を食べ物に例えると

マグロ：止まることなく常に前進しているから。



M・Tさん

出身地 : 静岡県
出身大学 : 東北大学大学院

○興味のある政策分野

輸出促進、食のブランド化、6次産業化

○農水省に入ってやりたいこと

さくらんぼの収穫ボランティアがきっかけで、稼げる農業を目指したいと考えました。販路の拡大や高付加価値化などに意欲的な生産者の支援に貢献したいです。

○学生時代の過ごし方

大学院では研究のフィールドワークに熱中しました。大学時代は商店街の振興活動やベーカリーのアルバイトをしました。

○自分を食べ物に例えると

とうもろこし：野菜の一粒一粒のように小さな学びの積み重ねを大切にしてきました。



T・Tさん

出身地 : 愛知県

出身大学 : 京都大学大学院

○興味のある政策分野

食品産業、新規就農支援、輸出入、消費拡大、新技術

○農水省に入ってやりたいこと

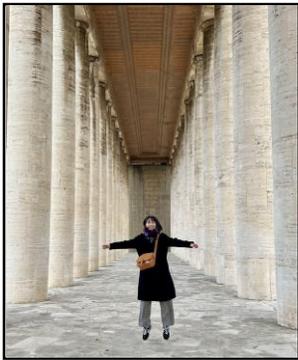
コロナ禍において日常生活を維持するうえで、食事が最も大切な要素だったため。自ら直接、社会的課題に取り組みたいと考えた。

○学生時代の過ごし方

茶道サークルの活動や語学の勉強、旅行をよくしていました。

○自分を食べ物に例えると

トマト



M・Tさん

出身地 : 岡山県

出身大学 : 東京外国語大学

○興味のある政策分野

農村振興、輸出促進、食育の推進、食文化保全

○農水省に入ってやりたいこと

地域そのものの魅力や、地域性ある食の需要をさらに高めることで、生産基盤をより強固にし、日本における「様々な食」の維持に貢献したいです。

○学生時代の過ごし方

興味分野の本を読んだり、スペイン舞踊部にて踊りの理想を追求してみたり、地域猫を観察したりなど、のびのび過ごしています。農泊@イタリアは良い思い出です。

○自分を食べ物に例えると

納豆 : どちらもしっかり粘ります。



T・Oさん

出身地 : 埼玉県

出身大学 : 一橋大学

○興味のある政策分野

輸出促進、農業経営、フードテック

○農水省に入ってやりたいこと

留学を通して食が日本の一番の魅力であると感じました。輸出促進を通して世界の成長を巻き込みながら日本の食を守っていきたいです。

○学生時代の過ごし方

ディスカッションサークルで活動したり、カフェや塾でアルバイトをしたりしていました。約1年間のイタリア留学にも挑戦しました。

○自分を食べ物に例えると

いくら : これから鮭へと成長したいから。



Y・Sさん

出身地 : 千葉県
出身大学 : 千葉大学

○興味のある政策分野

担い手確保、耕作放棄地対策、農水産物の消費拡大

○農水省に入ってやりたいこと

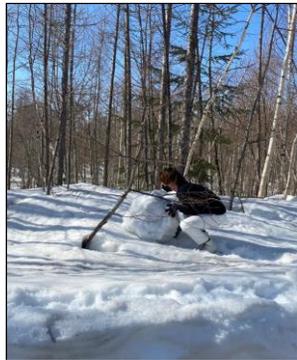
食料の安定供給はもちろん、その担い手の安定供給も実現できる仕組みを作りたいです。よりやる気のある担い手が持続的に農業を継承していけるような基盤を作りたいと思っています。

○学生時代の過ごし方

体育会の部活と文科系のサークル、環境系団体と複数のコミュニティで活動していました。興味を持ったことは取り敢えずやってみよう精神で生活していました。

○自分を食べ物に例えると

トマト：一番好きな野菜であり、その鮮やかな色が自分の明るい性格に合っていると感じたため。



A・Gさん

出身地 : 香川県
出身大学 : 京都大学

○興味のある政策分野

農村振興、食品物流

○農水省に入ってやりたいこと

地方部の活性化に携わりたいと思っています。地方毎の固有の「食」や田園風景等、地方にしかない魅力をアピールし、東京一極集中を打破したいです。

○学生時代の過ごし方

寺社仏閣をうろついたり、18切符で全国をぶらついたりしていました。ゼミで絞られたり競馬場で涙を飲んだりもしましたが、全体的にのんびりしていたと思います。

○自分を食べ物に例えると

カレーライス：雑に作っても耐えるから。



K・Sさん

出身地 : 茨城県
出身大学 : 早稲田大学大学院

○興味のある政策分野

食料安全保障、農村振興

○農水省に入ってやりたいこと

生活の利便性が増すなか、「地域らしさ」を守ることも大切だと考えているため、地域振興施策に携わりたいです。官庁訪問を通して「食料安全保障」の視点も面白いと感じました。

○学生時代の過ごし方

サククスに明け暮れていました。教職を履修し、初めて学問の面白さに気が付き(大学生になってやっと…。)、自分の興味関心のある分野の書籍をたくさん読んでいました。

○自分を食べ物に例えると

じゃがいも：ごつごつした見た目だけれど何だかんだ調理すると美味しいから。



T・Aさん

出身地 : 大阪府
出身大学 : 早稲田大学

○興味のある政策分野

農村振興、生産振興、輸出促進

○農水省に入ってやりたいこと

地方の基幹産業である第一次産業を振興し、なりたい・なりやすい職業にすることで、地方に人を呼び込む形の地方活性化を達成したいです。

○学生時代の過ごし方

茶道、法律、野球と3つのサークルに入り、ゼミも忙しく、充実した学生生活を送っている。それと同時に多種多様な趣味にも没頭しているため、時間が全く足りませんでした…。

○自分を食べ物に例えると

すいか：みんなに好かれたいと思っているため。



S・Yさん

出身地 : 静岡県
出身大学 : 京都大学

○興味のある政策分野

農地集積、輸出促進、農村振興

○農水省に入ってやりたいこと

農業をしていた祖父が高齢で農業を続けられなくなり、日本の農業の課題や、将来の食料供給に不安を覚えたため、課題に取り組みたいと思い志望した。農地集積に関わって農業の成長産業化に取り組みたい。

○学生時代の過ごし方

早朝のスーパーでバイトしたり、農業経済学のゼミで勉強したりしていた。また、サッカー観戦が趣味で、現地観戦に行ったりもした。

○自分を食べ物に例えると

白米



K・Sさん

出身地 : 静岡県
出身大学 : 東京大学

○興味のある政策分野

輸出促進、新規就農

○農水省に入ってやりたいこと

日本の良さを守り伸ばしていく上で、農林水産業の発展は今後より重要になると考えて志望しました。長期的に見て何が農林水産業の将来的な発展に必要なかという視点を持ち、望ましい政策を考えていきたいです。

○学生時代の過ごし方

サークル活動でマジックをしており、大学2年間の多くの時間とお金を費やしていました。また、ここ1年間は何故かミステリ小説にハマり大量に読んでいます。

○自分を食べ物に例えると

かき氷



S・Iさん

出身地 : 大分県
出身大学 : 九州大学

○興味のある政策分野

スマート農業、法人経営化、輸出

○農水省に入ってやりたいこと

スマート農業の普及や法人経営化の推進により、第一次産業を「稼げる」産業とすることです。第一次産業を活性化させることで、若者の参入や地域振興を行いたいです。

○学生時代の過ごし方

法学部は期末試験が重く、勉強ばかりしていた印象が強いですが、「今しかできない」をモットーになんでも全力でやっていました。

○自分を食べ物に例えると

シャインマスカット : 輝く笑顔へへ



A・Iさん

出身地 : 山形県
出身大学 : 東北大学

○興味のある政策分野

スマート農業、フードテック（新事業）等

○農水省に入ってやりたいこと

スマート農業やフードテック等、先端技術に関わりたいです。ある意味で、今までと変わらず食料にアクセスできるような社会を今後も実現していきたいと思っています。

○学生時代の過ごし方

大学で倫理学を学んだり、軽音サークルでギターボーカルをしたり、VCでバイトしたり、夜な夜な散歩したり、カラオケに行ったり、自転車で海に行ったり、スマブラをしたり…

○自分を食べ物に例えると

キャベツ : 周りの人と、まるく、仲良くしたい。一方で、自分の中にある「芯」も忘れないようにしたい。





K・Tさん

出身地 : 茨城県
出身大学 : 東北大学

○興味のある政策分野

農村振興、就農支援、高付加価値化

○農水省に入ってやりたいこと

生産の大規模化や商品のブランド化、スマート農業などによって、稼げる産業にすると同時に、省力化等にも取り組むことで、職業として広く選ばれる魅力的な産業にしたいです。

○学生時代の過ごし方

法律相談やフットサルなど色々なことに取り組みました。仙台でばかり過ごしていたので、長期の旅行など、学生ならではの自由時間を活かした過ごし方もすれば良かったです。

○自分を食べ物に例えると

納豆 : 粘り強さが売り & 納豆名産地の茨城出身



Y・Hさん

出身地 : 愛知県
出身大学 : 神戸大学

○興味のある政策分野

食料安全保障、農業経営

○農水省に入ってやりたいこと

食の安全保障という観点から、海外・国内問わず、広く政策に携わっていきたいです。また、産業従事者とともに、第一次産業を盛り上げていけたらと思います。

○学生時代の過ごし方

学業、アルバイト、サークル、友人と遊ぶなど、一般的な大学生生活を謳歌していました。ラーメン屋やパン屋が多かったので、街歩きも兼ねて、店を巡りました。

○自分を食べ物に例えると

海苔 : 和食の名脇役なイメージ。突出した存在感はなくても、欠かせない存在でありたいです。



W・Sさん

出身地 : 三重県
出身大学 : 名古屋大学大学院

○興味のある政策分野

みどり戦略、新規就農、林業分野

○農水省に入ってやりたいこと

生活の基盤である食・農に携わりたいと考え志望しました。稼げる農業にすることで新規就農政策、生産から流通・消費を通した環境配慮型農業に取り組みたいです。

○学生時代の過ごし方

入学当初は海外ボランティア活動、そこでの無力さから学部3年～は学問に打ち込みました。休みには色々な乗り物(最近船!)で旅へ行ってます。

○自分を食べ物に例えると

苺 : 一番好きな食べ物で、同じように自分自身を好きでいたいから。



M・Tさん

出身地 : 埼玉県
出身大学 : 早稲田大学

○興味のある政策分野

林野庁、経営局、農村振興局、新事業・食品産業部

○農水省に入ってやりたいこと

将来の子どもたちが安心して暮らせように、日本の農林水産業を生産力が高く環境負荷の低い形態にしていきたいです。農家さんが高い所得を得て自立した経営を行い、環境に配慮した商品が自ずと売れる構造にすることが理想です。

○学生時代の過ごし方

農業サークルに所属し、農家さんのお手伝いをしていました。国内外でのボランティアに参加したり、1年間ドイツ留学をしたりしました。

○自分を食べ物に例えると

トマト：元気で明るくことが私の取柄なので、真っ赤な夏野菜のトマトに似ていると思いました。



A・Mさん

出身地 : 熊本県
出身大学 : 慶應義塾大学

○興味のある政策分野

農業経営、スマート農業

○農水省に入ってやりたいこと

日本の農業の活性化に取り組みたいと考えています。制度面から課題解決を進め、農業従事者が一層活躍する社会を実現していきたいです

○学生時代の過ごし方

体育会バドミントン部で、4年間バドミントンに打ち込みました。週に6回の練習で忙しい生活でしたが、勉強も手を抜かず頑張りました。

○自分を食べ物に例えると

納豆：粘り強いからです。



T・Iさん

出身地 : 山口県
出身大学 : 京都大学大学院

○興味のある政策分野

農地政策、農村振興、農業技術

○農水省に入ってやりたいこと

日常生活を支える基盤である農業、特に耕作放棄地、農地集積、担い手不足といった農地を取り巻く課題を中心に、幅広く関わりたいと考えています。

○学生時代の過ごし方

野球に熱中していたほか、長期休みはよく旅行に行っていました。また、3回生以降は研究にも打ち込んでいました。

○自分を食べ物に例えると

コメ：これまでは多くの人に支えてもらい、これからは自分の選択次第で様々な人を支えることができるからです。



S・Yさん

出身地 : 鹿児島県

出身大学 : 九州大学

○興味のある政策分野

スマート農業、担い手確保、農地集積

○農水省に入ってやりたいこと

スマート農業の普及によって、農業の効率化を進め、持続可能な産業としての農業を確立することで、我が国の安心・安全な食と環境を守っていきたいと考えています。

○学生時代の過ごし方

大学では、ドイツ史を研究しており、資料探しとドイツ語の文献を読むことに没頭していました。とあるバトル漫画の影響で空手部に入り、文字通り血反吐を吐きながら活動しました。

○自分を食べ物に例えると

大根: 堅実さを大事にしたいです



K・Nさん

出身地 : 大阪府

出身大学 : 京都大学大学院

○興味のある政策分野

生産基盤強化 (土地集約、担い手、地域計画)

○農水省に入ってやりたいこと

農林水産業を通じた地域の活性化

○学生時代の過ごし方

自主活動、アルバイト、旅行

○自分を食べ物に例えると

バナナ



K・Oさん

出身地 : 神奈川県

出身大学 : 慶應義塾大学

○興味のある政策分野

輸出促進・貿易交渉、環境政策(バイオマス等)など

○農水省に入ってやりたいこと

国内・国際の両面で経験を積みながら、「食べたい時に食べたいものが好きなだけ食べられる」という日常を将来に守り継いで行くことに貢献したいです。

○学生時代の過ごし方

應援指導部吹奏楽団の活動に4年間没頭しました。日焼けで常に真っ黒でした。留学はコロナで断念しましたが、中国語だけは力を入れて勉強していました。

○自分を食べ物に例えると

じゃがいも: 脇役が多いですが、可能性が沢山あります。



Y・Mさん

出身地 : 神奈川県

出身大学 : 東京大学大学院

○興味のある政策分野

農村振興、農地集積、輸出促進、漁業資源管理、みどり戦略

○農水省に入ってやりたいこと

農地集積やスマート農業、輸出支援などを通して農林水産業を強く魅力ある産業とするとともに、地域資源の活用を通して農山漁村の活性化を実現したいです。また、日本の農林水産業の持続的な発展の基礎となるルールづくりなど国際的な業務にも関わりたいです。

○学生時代の過ごし方

大学では国際法を中心に学んでいます。予備校でのバイトやサークル（法律相談所）、学内の様々なプログラム（地域振興、海洋問題など）、趣味の旅行など幅広くやってきました。どれも貴重な経験になったと感じています。

○自分を食べ物に例えると

ゴーヤ：関心を広く持って成長を続けていきたいです。



R・Nさん

出身地 : 神奈川県

出身大学 : 東北大学大学院

○興味のある政策分野

農地経営、農業金融、都市農業振興、水産業

○農水省に入ってやりたいこと

実家が首都圏で農家を営んでおり、都市農業の魅力や課題を認識しました。この経験から、都市農業振興や農林水産業の成長産業化を実現したく志望しました。農業者の方々の円滑な資金調達と持続可能な農林水産業の発展に寄与したいです。

○学生時代の過ごし方

学部横断のゼミや研究室で地方創生に向けた政策について研究していました。大学ではハイキング部に所属しており、集団山行に打ち込んでいました。

○自分を食べ物に例えると

ジャポニカ米で作られた炒飯：個としての強さとソフトな人柄、まとまる力があります。



編集後記

最後までお読みいただきありがとうございました。

農林水産省が扱う仕事の幅の広さや内定者のバックグラウンドの多様さを感じていただけたのではないのでしょうか。本冊子を読んで少しでも農林水産省に興味を持たれたという方は、次は説明会や座談会などに参加してみてください。農林水産省のイベントには様々な形態がありますが、どれも和やかな雰囲気の中で、多くのことを学び、考える機会となったと私自身感じています。気軽に参加して、農林水産省の中の人たちの想いや雰囲気を感じとっていただければと思います。

就職活動は長丁場で、精神的にも体力的にも疲れを感じることもありました。普段ならお会いできないような方から直接お話をうかがったり、全力で頭を使って物事を考えて表現したりと、人生における貴重な成長の機会にもなった実感しています。皆さんも、健康に気をつけながら前向きに過ごしていただけたらと思います。応援しています。

いつか農林水産省で皆さんとお会いできる日を心から楽しみにしています！

令和5年度 農林水産省総合職事務系
内定者ガイドブック編集担当一同



内定者

農林水産省